

財 産 目 録

令和3年3月31日現在

I 資産額	4,261,513,025 円
内 基本財産	3,244,439,026 円
運用財産	1,017,073,999 円
II 負債額	256,312,891 円
III 正味財産 (資産額－負債額)	4,005,200,134 円

科 目	令和2年度末	
一 資産額		
(一) 基本財産		
1 土地		
倉敷校地	68,528.14 m ²	337,423,794 円
鴨方校地	15,310.81 m ²	28,135,724 円
里庄校地	21,267.00 m ²	0 円
2 建物	24,924.97 m ²	2,339,148,455 円
3 構築物		4,959,967 円
4 図書		441,926,374 円
5 教具・校具・備品		92,750,748 円
6 車輛		93,964 円
(二) 運用財産		
1 現金預金		158,029,487 円
2 積立金		843,256,602 円
3 借地権		600,000 円
4 電話加入権		2,924,514 円
5 施設利用権		567,924 円
6 預託金		9,110 円
7 販売用品		1,532,162 円
8 未収入金		10,039,600 円
9 前払金		114,600 円
合 計		4,261,513,025 円
二 負債額		
1 固定負債		
(1) 長期未払金		1,322,460 円
(2) 退職給与引当金		148,287,716 円
2 流動負債		
(1) 前受金		40,927,000 円
(2) 未払金		19,187,492 円
(3) 預り金		46,588,223 円
合 計		256,312,891 円
三 正味財産 (資産額－負債額)		4,005,200,134 円

基本財産とは、岡山学院大学及び岡山短期大学に必要な施設及び設備又はこれらに要する財産、
運用財産とは、岡山学院大学及び岡山短期大学の経営に必要な財産です。

令和 2 年 度

令和 2 年 4 月 1 日 から
令和 3 年 3 月 31 日 まで

計 算 書 類

資 金 収 支 計 算 書
資 金 収 支 内 訳 表
人 件 費 支 出 内 訳 表
活 動 区 分 資 金 収 支 計 算 書
事 業 活 動 収 支 計 算 書
事 業 活 動 収 支 内 訳 表
貸 借 対 照 表
固 定 資 産 明 細 表
借 入 金 明 細 表
基 本 金 明 細 表

学校法人 原田学園

資金収支計算書

令和 2年4月 1日から
令和 3年3月31日まで

(単位 円)

収入の部				
科	目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入		174,305,000	174,305,090	△ 90
授業料収入		80,426,000	80,426,000	0
入学金収入		15,500,000	15,500,000	0
教育充実費収入		51,540,000	51,540,000	0
施設設備費収入		23,770,000	23,770,000	0
学外実習手数料収入		3,069,000	3,069,090	△ 90
手数料収入		2,791,000	2,822,600	△ 31,600
入学検定料収入		2,160,000	2,184,000	△ 24,000
試験料収入		471,000	471,000	0
証明手数料収入		160,000	167,600	△ 7,600
寄付金収入		12,860,000	12,497,252	362,748
特別寄付金収入		11,840,000	11,837,252	2,748
一般寄付金収入		1,020,000	660,000	360,000
補助金収入		40,273,000	39,814,700	458,300
国庫補助金収入		40,200,000	39,741,700	458,300
地方公共団体補助金収入		73,000	73,000	0
資産売却収入		0	0	0
付随事業・収益事業収入		585,000	583,900	1,100
受託事業収入		510,000	510,000	0
公開講座収入		75,000	73,900	1,100
受取利息・配当金収入		400,000	407,908	△ 7,908
その他の受取利息・配当金収入		400,000	407,908	△ 7,908
雑収入		12,465,200	15,826,135	△ 3,360,935
施設設備利用料収入		430,000	430,550	△ 550
私立大学退職金財団交付金収入		10,035,200	10,035,200	0
為替差益収入		0	3,355,775	△ 3,355,775
その他の雑収入		2,000,000	2,004,610	△ 4,610
借入金等収入		0	0	0
前受金収入		39,323,500	40,927,000	△ 1,603,500
授業料前受金収入		22,620,000	23,630,000	△ 1,010,000
入学金前受金収入		8,750,000	9,000,000	△ 250,000
教育充実費前受金収入		5,365,000	5,600,000	△ 235,000
施設設備費前受金収入		2,259,500	2,368,000	△ 108,500
補助活動事業前受金収入		329,000	329,000	0
その他の収入		203,829,298	243,003,763	△ 39,174,465
退職給与引当特定資産取崩収入		4,818,753	4,818,753	0
減価償却引当特定資産取崩収入		150,000,000	150,000,000	0
前期末未収入金収入		48,010,545	48,010,545	0
補助活動事業元入金回収収入		1,000,000	1,000,000	0
預り金収入		0	39,174,465	△ 39,174,465
資金収入調整勘定		△ 46,545,500	△ 46,535,100	△ 10,400
期末未収入金		△ 10,050,000	△ 10,039,600	△ 10,400
前期末前受金		△ 36,495,500	△ 36,495,500	0
前年度繰越支払資金		107,167,952	107,167,952	
収入の部合計		547,454,450	590,821,200	△ 43,366,750
支出の部				
科	目	予 算	決 算	差 異
人件費支出		247,985,200	247,794,781	190,419
教員人件費支出		158,000,000	157,879,354	120,646
職員人件費支出		78,500,000	78,430,227	69,773
役員報酬支出		1,240,000	1,240,000	0
退職金支出		10,245,200	10,245,200	0
教育研究経費支出		105,618,029	101,714,367	3,903,662
消耗品費支出		5,700,000	5,586,452	113,548
光熱水費支出		15,000,000	13,793,621	1,206,379
旅費交通費支出		500,000	436,975	63,025
奨学費支出		23,575,000	23,574,700	300
通信費支出		1,900,000	1,781,338	118,662
印刷製本費支出		1,500,000	1,153,333	346,667
修繕費支出		12,000,000	10,052,380	1,947,620
損害保険料支出		1,060,000	1,029,870	30,130
会議会合費支出		210,000	208,450	1,550
行事費支出		30,000	11,000	19,000
負担金支出		2,000,000	1,995,330	4,670
リース料支出		1,800,000	1,798,200	1,800
支払報酬手数料支出		35,199,354	35,199,354	0
福利費支出		300,000	279,689	20,311
学外実習費支出		2,413,675	2,413,675	0
貸借料支出		2,400,000	2,400,000	0
雑費支出		30,000	0	30,000

管理経費支出	66,243,204	62,207,712	4,035,492
消耗品費支出	1,800,000	1,643,511	156,489
光熱水費支出	1,200,000	1,131,188	68,812
旅費交通費支出	633,471	633,471	0
車輛燃料費支出	150,000	129,690	20,310
通信費支出	2,700,000	2,563,831	136,169
印刷製本費支出	8,000,000	7,160,342	839,658
修繕費支出	1,000,000	953,651	46,349
損害保険料支出	400,000	354,850	45,150
会議会合費支出	140,000	131,765	8,235
公租公課支出	1,000,000	701,150	298,850
負担金支出	2,300,620	2,300,620	0
支払報酬手数料支出	16,250,000	15,594,026	655,974
渉外費支出	1,011,113	1,011,113	0
福利費支出	600,000	507,255	92,745
広告費支出	23,000,000	21,683,293	1,316,707
賃借料支出	600,000	440,000	160,000
補助活動事業支出	4,800,000	4,672,466	127,534
私立大学等経常費補助金返還金支出	358,000	358,000	0
雑費支出	300,000	237,490	62,510
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	0	0	0
設備関係支出	4,400,000	3,549,470	850,530
教育研究用機器備品支出	2,000,000	1,682,030	317,970
管理用機器備品支出	400,000	0	400,000
図書支出	2,000,000	1,867,440	132,560
資産運用支出	1,000,000	1,000,000	0
補助活動事業元入金支払支出	1,000,000	1,000,000	0
その他の支出	35,677,615	35,592,215	85,400
前期末未払金支払支出	35,477,615	35,477,615	0
前払金支払支出	200,000	114,600	85,400
〔予備費〕	(258,233)		
資金支出調整勘定	△ 19,741,767		19,741,767
期末未払金	△ 18,391,260	△ 19,066,832	675,572
前期末前払金	△ 18,000,000	△ 18,675,572	675,572
前期末前払金	△ 391,260	△ 391,260	0
翌年度繰越支払資金	85,179,895	158,029,487	△ 72,849,592
支出の部合計	547,454,450	590,821,200	△ 43,366,750

注1 予備費の使用額

教育研究経費の支払報酬手数料支出	199,354
" の学外実習費支出	13,675
管理経費の旅費交通費支出	33,471
" の負担金支出	620
" の渉外費支出	11,113
合 計	258,233 円

資金収支計算書とは、当該会計年度における学校法人全体の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

当該会計年度の資金収入のうち前期末前受金及び期末未収入金は、収入の部の控除科目として、収入の部に計上しています。また、資金支出のうち前期末前払金及び期末未払金は、支出の部の控除科目として、支出の部に計上しています。

令和2年度決算において、収入の部では、特定資産の取崩収入や前期末未収入金収入を除くと、学生生徒等納付金収入の1億7430万5090円、補助金収入の3981万4700円及び前受金収入の4092万7000円が収入の大半を占めています。

また、支出の部では、人件費支出の2億4779万4781円、教育研究経費支出の1億171万4367円、管理経費支出の6220万7712円が大きな割合を占めています。

資金収支内訳表

令和 2年4月 1日から

令和 3年3月31日まで

収入の部

(単位 円)

部 門 科 目	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
		人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
学生生徒等納付金収入	0	95,545,044	78,760,046	174,305,090
授業料収入	0	46,642,000	33,784,000	80,426,000
入学金収入	0	5,500,000	10,000,000	15,500,000
教育充実費収入	0	28,500,000	23,040,000	51,540,000
施設設備費収入	0	14,250,000	9,520,000	23,770,000
学外実習手数料収入	0	653,044	2,416,046	3,069,090
手数料収入	0	1,099,600	1,723,000	2,822,600
入学検定料収入	0	768,000	1,416,000	2,184,000
試験料収入	0	276,000	195,000	471,000
証明手数料収入	0	55,600	112,000	167,600
寄付金収入	0	6,742,326	5,754,926	12,497,252
特別寄付金収入	0	6,522,326	5,314,926	11,837,252
一般寄付金収入	0	220,000	440,000	660,000
補助金収入	0	33,962,500	5,852,200	39,814,700
国庫補助金収入	0	33,938,300	5,803,400	39,741,700
地方公共団体補助金収入	0	24,200	48,800	73,000
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	0	1,000	582,900	583,900
受託事業収入	0	0	510,000	510,000
公開講座収入	0	1,000	72,900	73,900
受取利息・配当金収入	407,908	0	0	407,908
その他の受取利息・配当金収入	407,908	0	0	407,908
雑収入	3,367,775	1,469,243	10,989,117	15,826,135
施設設備利用料収入	12,000	276,937	141,613	430,550
私立大学退職金財団交付金収入	0	0	10,035,200	10,035,200
為替差益収入	3,355,775	0	0	3,355,775
その他の雑収入	0	1,192,306	812,304	2,004,610
借入金等収入	0	0	0	0
計	3,775,683	138,819,713	103,662,189	246,257,585

支出の部

(単位 円)

部 門 科 目	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
		人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
人件費支出	5,984,854	132,067,125	109,742,802	247,794,781
教員人件費支出	0	89,581,870	68,297,484	157,879,354
職員人件費支出	4,744,854	42,435,255	31,250,118	78,430,227
役員報酬支出	1,240,000	0	0	1,240,000
退職金支出	0	50,000	10,195,200	10,245,200
教育研究経費支出	0	54,318,345	47,396,022	101,714,367
消耗品費支出	0	4,087,170	1,499,282	5,586,452
光熱水費支出	0	7,577,458	6,216,163	13,793,621
旅費交通費支出	0	156,205	280,770	436,975
奨学費支出	0	10,951,300	12,623,400	23,574,700
通信費支出	0	869,011	912,327	1,781,338
印刷製本費支出	0	617,451	535,882	1,153,333
修繕費支出	0	5,488,336	4,564,044	10,052,380
損害保険料支出	0	565,747	464,123	1,029,870
会議会合費支出	0	114,856	93,594	208,450
行事費支出	0	6,061	4,939	11,000
負担金支出	0	1,316,707	678,623	1,995,330
リース料支出	0	1,373,701	424,499	1,798,200
支払報酬手数料支出	0	19,258,136	15,941,218	35,199,354
福利費支出	0	75,626	204,063	279,689
学外実習費支出	0	538,180	1,875,495	2,413,675
賃借料支出	0	1,322,400	1,077,600	2,400,000

管理經費支出	1,439,286	32,430,701	28,337,725	62,207,712
消耗品費支出	550	907,537	735,424	1,643,511
光熱水費支出	7,370	619,224	504,594	1,131,188
旅費交通費支出	65,761	313,125	254,585	633,471
車輛燃料費支出	0	71,459	58,231	129,690
通信費支出	0	1,411,238	1,152,593	2,563,831
印刷製本費支出	0	3,945,348	3,214,994	7,160,342
修繕費支出	0	525,462	428,189	953,651
損害保険料支出	53,000	166,319	135,531	354,850
会議会合費支出	0	72,603	59,162	131,765
公租公課支出	377,420	178,375	145,355	701,150
負担金支出	0	1,241,245	1,059,375	2,300,620
支払報酬手数料支出	589,185	7,866,030	7,138,811	15,594,026
渉外費支出	346,000	372,293	292,820	1,011,113
福利費支出	0	293,378	213,877	507,255
広告費支出	0	11,078,149	10,605,144	21,683,293
賃借料支出	0	242,440	197,560	440,000
補助活動事業支出	0	2,797,076	1,875,390	4,672,466
私立大学等經常費補助金返還金支出	0	212,000	146,000	358,000
雑費支出	0	117,400	120,090	237,490
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	0	0	0	0
設備関係支出	0	1,721,239	1,828,231	3,549,470
教育研究用機器備品支出	0	922,778	759,252	1,682,030
図書支出	0	798,461	1,068,979	1,867,440
計	7,424,140	220,537,410	187,304,780	415,266,330

人件費支出内訳表

令和 2年4月 1日から
令和 3年3月31日まで

(単位 円)

科 目	部 門	学 校 法 人	岡 山 学 院 大 学	岡 山 短 期 大 学	総 額
			人 間 生 活 学 部	幼 児 教 育 学 科	
教員人件費支出		0	89,581,870	68,297,484	157,879,354
本務教員		0	87,065,528	60,726,034	147,791,562
本俸		0	63,342,000	43,440,000	106,782,000
期末手当		0	6,867,569	4,903,669	11,771,238
その他の手当		0	4,339,000	3,276,606	7,615,606
所定福利費		0	8,157,441	5,521,213	13,678,654
私立大学退職金財団負担金		0	4,359,518	3,584,546	7,944,064
兼務教員		0	2,516,342	7,571,450	10,087,792
職員人件費支出		4,744,854	42,435,255	31,250,118	78,430,227
本務職員		4,744,854	42,435,255	31,250,118	78,430,227
本俸		2,927,400	25,969,812	20,247,448	49,144,660
期末手当		407,397	3,653,874	2,662,218	6,723,489
その他の手当		520,428	5,045,571	2,446,360	8,012,359
所定福利費		563,325	4,829,262	3,567,043	8,959,630
私立大学退職金財団負担金		326,304	2,936,736	2,327,049	5,590,089
兼務職員		0	0	0	0
役員報酬支出		1,240,000	0	0	1,240,000
退職金支出		0	50,000	10,195,200	10,245,200
教員		0	50,000	8,703,600	8,753,600
職員		0	0	1,491,600	1,491,600
計		5,984,854	132,067,125	109,742,802	247,794,781

活動区分資金収支計算書

令和 2年4月 1日から
令和 3年3月31日まで

(単位 円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	174,305,090
		手数料収入	2,822,600
		特別寄付金収入	11,837,252
		一般寄付金収入	660,000
		経常費等補助金収入	39,814,700
		付随事業収入	583,900
		雑収入	12,470,360
		教育活動資金収入計	242,493,902
	支出	人件費支出	247,794,781
		教育研究経費支出	101,714,367
		管理経費支出	62,207,712
		教育活動資金支出計	411,716,860
	差引		△ 169,222,958
調整勘定等		5,336,232	
教育活動資金収支差額		△ 163,886,726	
施設による整備等活動支	科 目		金 額
	収入	減価償却引当特定資産取崩収入	150,000,000
		施設整備等活動資金収入計	150,000,000
	支出	設備関係支出	3,549,470
		施設整備等活動資金支出計	3,549,470
	差引		146,450,530
	調整勘定等		21,248,137
施設整備等活動資金収支差額		167,698,667	
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			3,811,941
その他の活動による資金収支	科 目		金 額
	収入	退職給与引当特定資産取崩収入	4,818,753
		補助活動事業元入金回収収入	1,000,000
		預り金収入	39,174,465
		小計	44,993,218
		受取利息・配当金収入	407,908
		為替差益収入	3,355,775
		その他の活動資金収入計	48,756,901
	支出	補助活動事業元入金支払支出	1,000,000
		小計	1,000,000
		その他の活動資金支出計	1,000,000
	差引		47,756,901
	調整勘定等		△ 707,307
その他の活動資金収支差額		47,049,594	
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)			50,861,535
前年度繰越支払資金			107,167,952
翌年度繰越支払資金			158,029,487

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。

(単位 円)

項目	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	40,927,000	40,927,000	0	0
前期末未収入金収入	48,010,545	26,285,545	21,725,000	0
期末未収入金	△ 10,039,600	△ 10,039,600	0	0
前期末前受金	△ 36,495,500	△ 36,495,500	0	0
収入計	42,402,445	20,677,445	21,725,000	0
前期末未払金支払支出	35,477,615	33,382,803	526,205	1,568,607
前払金支払支出	114,600	114,600	0	0
期末未払金	△ 18,675,572	△ 17,793,570	△ 20,702	△ 861,300
前期末前払金	△ 391,260	△ 362,620	△ 28,640	0
支出計	16,525,383	15,341,213	476,863	707,307
収入計 — 支出計	25,877,062	5,336,232	21,248,137	△ 707,307

活動区分資金収支計算書とは、資金収支計算書の決算額を3つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにするものです。

令和2年度決算において、教育活動による資金収支では、収入計が2億4249万3902円、支出計が4億1171万6860円となり調整勘定の533万6232円を含めた収支差額は△1億6388万6726円となっています。

施設整備等活動による資金収支では、収入計が1億5000万円、支出計が354万9470円となり調整勘定の2124万8137円を含めた収支差額は1億6769万8667円となっています。

その他の活動による資金収支では、収入計が4875万6901円、支出計が100万円となり調整勘定の△70万7307円を含めた収支差額は4704万9594円となっています。

すべての活動区分をあわせた支払資金の増減額は5086万1535円で、前年度繰越支払資金とあわせると翌年度繰越支払資金は1億5802万9487円となります。

事業活動収支計算書

令和 2年4月 1日から
令和 3年3月31日まで

(単位 円)

		予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部	科 目			
	学生生徒等納付金	174,305,000	174,305,090	△ 90
	授業料	80,426,000	80,426,000	0
	入学金	15,500,000	15,500,000	0
	教育充実費	51,540,000	51,540,000	0
	施設設備費	23,770,000	23,770,000	0
	学外実習手数料	3,069,000	3,069,090	△ 90
	手数料	2,791,000	2,822,600	△ 31,600
	入学検定料	2,160,000	2,184,000	△ 24,000
	試験料	471,000	471,000	0
	証明手数料	160,000	167,600	△ 7,600
	寄付金	12,860,000	12,497,252	362,748
	特別寄付金	11,840,000	11,837,252	2,748
	一般寄付金	1,020,000	660,000	360,000
	経常費等補助金	40,273,000	39,814,700	458,300
	国庫補助金	40,200,000	39,741,700	458,300
	地方公共団体補助金	73,000	73,000	0
	付随事業収入	585,000	583,900	1,100
	受託事業収入	510,000	510,000	0
	公開講座収入	75,000	73,900	1,100
	雑収入	12,465,200	17,289,113	△ 4,823,913
	施設設備利用料	430,000	430,550	△ 550
	私立大学退職金財団交付金	10,035,200	10,035,200	0
	退職給与引当金戻入額	0	4,818,753	△ 4,818,753
	その他の雑収入	2,000,000	2,004,610	△ 4,610
	教育活動収入計	243,279,200	247,312,655	△ 4,033,455
事業活動支出の部	科 目			
	人件費	247,985,200	247,794,781	190,419
	教員人件費	158,000,000	157,879,354	120,646
	職員人件費	78,500,000	78,430,227	69,773
	役員報酬	1,240,000	1,240,000	0
	退職金	10,245,200	10,245,200	0
	教育研究経費	190,618,029	185,800,316	4,817,713
	消耗品費	5,700,000	5,586,452	113,548
	光熱水費	15,000,000	13,793,621	1,206,379
	旅費交通費	500,000	436,975	63,025
	奨学費	23,575,000	23,574,700	300
	通信費	1,900,000	1,781,338	118,662
	印刷製本費	1,500,000	1,153,333	346,667
	修繕費	12,000,000	10,052,380	1,947,620
	損害保険料	1,060,000	1,029,870	30,130
	会議会合費	210,000	208,450	1,550
	行事費	30,000	11,000	19,000
	負担金	2,000,000	1,995,330	4,670
	リース料	1,800,000	1,798,200	1,800
	支払報酬手数料	35,199,354	35,199,354	0
	福利費	300,000	279,689	20,311
	学外実習費	2,413,675	2,413,675	0
	賃借料	2,400,000	2,400,000	0
	雑費	30,000	0	30,000
	減価償却額	85,000,000	84,085,949	914,051
	管理経費	78,743,204	74,041,064	4,702,140
	消耗品費	1,800,000	1,643,511	156,489
	光熱水費	1,200,000	1,131,188	68,812
	旅費交通費	633,471	633,471	0
	車輛燃料費	150,000	129,690	20,310
	通信費	2,700,000	2,563,831	136,169
	印刷製本費	8,000,000	7,160,342	839,658
	修繕費	1,000,000	953,651	46,349
	損害保険料	400,000	354,850	45,150
	会議会合費	140,000	131,765	8,235
	公租公課	1,000,000	701,150	298,850
	負担金	2,300,620	2,300,620	0
	支払報酬手数料	16,250,000	15,594,026	655,974
	渉外費	1,011,113	1,011,113	0
	福利費	600,000	507,255	92,745
	広告費	23,000,000	21,683,293	1,316,707
	賃借料	600,000	440,000	160,000
	補助活動事業	4,800,000	4,691,275	108,725
私立大学等経常費補助金返還金	358,000	358,000	0	
雑費	300,000	237,490	62,510	
減価償却額	12,500,000	11,814,543	685,457	
徴収不能額等	0	0	0	
教育活動支出計	517,346,433	507,636,161	9,710,272	
教育活動収支差額	△ 274,067,233	△ 260,323,506	△ 13,743,727	

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動外収支	事業収入活動部	受取利息・配当金	400,000	407,908	△ 7,908
		その他の受取利息・配当金	400,000	407,908	△ 7,908
		その他の教育活動外収入	0	3,355,775	△ 3,355,775
		為替差益	0	3,355,775	△ 3,355,775
		教育活動外収入計	400,000	3,763,683	△ 3,363,683
	事業支出活動部	借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出		0	0	0	
教育活動外支出計		0	0	0	
教育活動外収支差額		400,000	3,763,683	△ 3,363,683	
		經常収支差額	△ 273,667,233	△ 256,559,823	△ 17,107,410
特別収支	事業収入活動部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	260,000	306,146	△ 46,146
		現物寄付	260,000	306,146	△ 46,146
		特別収入計	260,000	306,146	△ 46,146
	事業支出活動部	資産処分差額	219,193	219,193	0
		設備処分差額	219,193	219,193	0
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	219,193	219,193	0
		特別収支差額	40,807	86,953	△ 46,146
			(予備費)	(277,426)	
		19,722,574		19,722,574	
	基本金組入前当年度収支差額	△ 293,349,000	△ 256,472,870	△ 36,876,130	
	基本金組入額合計	△ 4,446,205	△ 3,611,525	△ 834,680	
	当年度収支差額	△ 297,795,205	△ 260,084,395	△ 37,710,810	
	前年度繰越収支差額	△ 3,170,401,031	△ 3,170,401,031	0	
	基本金取崩額	0	0	0	
	翌年度繰越収支差額	△ 3,468,196,236	△ 3,430,485,426	△ 37,710,810	
(参考)					
	事業活動収入計	243,939,200	251,382,484	△ 7,443,284	
	事業活動支出計	537,288,200	507,855,354	29,432,846	

注1 予備費の使用額

教育研究経費の支払報酬手数料	199,354
〃 の学外実習費	13,675
管理経費の旅費交通費	33,471
〃 の負担金	620
〃 の渉外費	11,113
資産処分差額の設備処分差額	19,193
合 計	277,426 円

事業活動収支計算書とは、当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。

令和2年度決算において、教育活動収入計が2億4731万2655円、教育活動支出計が5億763万6161円で教育活動収支差額は△2億6032万3506円となっています。

教育活動外収入計は376万3683円、教育活動外支出計は0円で教育活動外収支差額は376万3683円です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額をあわせた經常収支差額は、△2億5655万9823円となっています。また、特別収支差額は8万6953円です。

すべての活動区分をあわせた事業活動収入計は2億5138万2484円、事業活動支出計は5億785万5354円で、2億5647万2870円の支出超過となっています。

事業活動収支内訳表

令和 2年4月 1日から
令和 3年3月31日まで

(単位 円)

科目	部門	学校法人			総額	
		岡山学院大学	岡山短期大学			
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	0	95,545,044	78,760,046	174,305,090	
	授業料	0	46,642,000	33,784,000	80,426,000	
	入学金	0	5,500,000	10,000,000	15,500,000	
	教育充実費	0	28,500,000	23,040,000	51,540,000	
	施設設備費	0	14,250,000	9,520,000	23,770,000	
	学外実習手数料	0	653,044	2,416,046	3,069,090	
	手数料	0	1,099,600	1,723,000	2,822,600	
	入学検定料	0	768,000	1,416,000	2,184,000	
	試験料	0	276,000	195,000	471,000	
	証明手数料	0	55,600	112,000	167,600	
	寄付金	0	6,742,326	5,754,926	12,497,252	
	特別寄付金	0	6,522,326	5,314,926	11,837,252	
	一般寄付金	0	220,000	440,000	660,000	
	経常費等補助金	0	33,962,500	5,852,200	39,814,700	
	国庫補助金	0	33,938,300	5,803,400	39,741,700	
	地方公共団体補助金	0	24,200	48,800	73,000	
	付随事業収入	0	1,000	582,900	583,900	
	受託事業収入	0	0	510,000	510,000	
	公開講座収入	0	1,000	72,900	73,900	
	雑収入	12,000	4,124,376	13,152,737	17,289,113	
施設設備利用料	12,000	276,937	141,613	430,550		
私立大学退職金財団交付金	0	0	10,035,200	10,035,200		
退職給与引当金戻入額	0	2,655,133	2,163,620	4,818,753		
その他の雑収入	0	1,192,306	812,304	2,004,610		
教育活動収入計	12,000	141,474,846	105,825,809	247,312,655		
教育活動収支	事業活動支出の部	人件費	5,984,854	132,067,125	109,742,802	247,794,781
		教員人件費	0	89,581,870	68,297,484	157,879,354
		職員人件費	4,744,854	42,435,255	31,250,118	78,430,227
		役員報酬	1,240,000	0	0	1,240,000
		退職金	0	50,000	10,195,200	10,245,200
		教育研究経費	0	100,649,703	85,150,613	185,800,316
		消耗品費	0	4,087,170	1,499,282	5,586,452
		光熱水費	0	7,577,458	6,216,163	13,793,621
		旅費交通費	0	156,205	280,770	436,975
		奨学費	0	10,951,300	12,623,400	23,574,700
		通信費	0	869,011	912,327	1,781,338
		印刷製本費	0	617,451	535,882	1,153,333
		修繕費	0	5,488,336	4,564,044	10,052,380
		損害保険料	0	565,747	464,123	1,029,870
		会議会合費	0	114,856	93,594	208,450
		行事費	0	6,061	4,939	11,000
		負担金	0	1,316,707	678,623	1,995,330
		リース料	0	1,373,701	424,499	1,798,200
		支払報酬手数料	0	19,258,136	15,941,218	35,199,354
		福利費	0	75,626	204,063	279,689
	学外実習費	0	538,180	1,875,495	2,413,675	
	賃借料	0	1,322,400	1,077,600	2,400,000	
	減価償却額	0	46,331,358	37,754,591	84,085,949	
	管理経費	1,439,286	38,950,878	33,650,900	74,041,064	
	消耗品費	550	907,537	735,424	1,643,511	
	光熱水費	7,370	619,224	504,594	1,131,188	
	旅費交通費	65,761	313,125	254,585	633,471	
	車輛燃料費	0	71,459	58,231	129,690	
	通信費	0	1,411,238	1,152,593	2,563,831	
	印刷製本費	0	3,945,348	3,214,994	7,160,342	
	修繕費	0	525,462	428,189	953,651	
	損害保険料	53,000	166,319	135,531	354,850	
	会議会合費	0	72,603	59,162	131,765	
	公租公課	377,420	178,375	145,355	701,150	
	負担金	0	1,241,245	1,059,375	2,300,620	
	支払報酬手数料	589,185	7,866,030	7,138,811	15,594,026	
	渉外費	346,000	372,293	292,820	1,011,113	
	福利費	0	293,378	213,877	507,255	
	広告費	0	11,078,149	10,605,144	21,683,293	
	賃借料	0	242,440	197,560	440,000	
補助活動事業	0	2,807,440	1,883,835	4,691,275		
私立大学等経常費補助金返還金	0	212,000	146,000	358,000		
雑費	0	117,400	120,090	237,490		
減価償却額	0	6,509,813	5,304,730	11,814,543		
徴収不能額等	0	0	0	0		
教育活動支出計	7,424,140	271,667,706	228,544,315	507,636,161		
教育活動収支差額	△ 7,412,140	△ 130,192,860	△ 122,718,506	△ 260,323,506		

教育活動外収支	事業収入の活動部	受取利息・配当金	407,908	0	0	407,908
		その他の受取利息・配当金	407,908	0	0	407,908
		その他の教育活動外収入	3,355,775	0	0	3,355,775
		為替差益	3,355,775	0	0	3,355,775
	教育活動外収入計	3,763,683	0	0	3,763,683	
	事業支出の活動部	借入金等利息	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出計		0	0	0	0	
教育活動外収支差額		3,763,683	0	0	3,763,683	
経常収支差額		△ 3,648,457	△ 130,192,860	△ 122,718,506	△ 256,559,823	
特別収支	事業収入の活動部	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	168,686	137,460	306,146
		現物寄付	0	168,686	137,460	306,146
		特別収入計	0	168,686	137,460	306,146
	事業支出の活動部	資産処分差額	0	120,776	98,417	219,193
		設備処分差額	0	120,776	98,417	219,193
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	0	120,776	98,417	219,193
特別収支差額		0	47,910	39,043	86,953	
基本金組入前当年度収支差額		△ 3,648,457	△ 130,144,950	△ 122,679,463	△ 256,472,870	
基本金組入額合計		△ 0	△ 1,989,950	△ 1,621,575	△ 3,611,525	
当年度収支差額		△ 3,648,457	△ 132,134,900	△ 124,301,038	△ 260,084,395	
(参考)						
事業活動収入計		3,775,683	141,643,532	105,963,269	251,382,484	
事業活動支出計		7,424,140	271,788,482	228,642,732	507,855,354	

貸借対照表

令和3年3月31日

(単位 円)

資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定資産		4,091,797,176	4,338,879,998	△ 247,082,822
有形固定資産		3,244,439,026	3,336,469,040	△ 92,030,014
土地		365,559,518	365,559,518	0
建物		2,339,148,455	2,423,742,280	△ 84,593,825
構築物		4,959,967	6,959,284	△ 1,999,317
教育研究用機器備品		68,341,323	74,593,676	△ 6,252,353
管理用機器備品		24,409,425	25,550,596	△ 1,141,171
図書		441,926,374	439,781,802	2,144,572
車輜		93,964	281,884	△ 187,920
特定資産		843,256,602	998,075,355	△ 154,818,753
退職給与引当特定資産		148,287,716	153,106,469	△ 4,818,753
減価償却引当特定資産		694,968,886	844,968,886	△ 150,000,000
その他の固定資産		4,101,548	4,335,603	△ 234,055
借地権		600,000	600,000	0
電話加入権		2,924,514	2,924,514	0
施設利用権		567,924	801,979	△ 234,055
預託金		9,110	9,110	0
流動資産		169,715,849	157,120,728	12,595,121
現金預金		158,029,487	107,167,952	50,861,535
未収入金		10,039,600	48,010,545	△ 37,970,945
販売用品		1,532,162	1,550,971	△ 18,809
前払金		114,600	391,260	△ 276,660
資産の部合計		4,261,513,025	4,496,000,726	△ 234,487,701
負債の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
固定負債		149,610,176	154,940,849	△ 5,330,673
長期未払金		1,322,460	1,834,380	△ 511,920
退職給与引当金		148,287,716	153,106,469	△ 4,818,753
流動負債		106,702,715	79,386,873	27,315,842
未払金		19,187,492	35,477,615	△ 16,290,123
前受金		40,927,000	36,495,500	4,431,500
預り金		46,588,223	7,413,758	39,174,465
負債の部合計		256,312,891	234,327,722	21,985,169
純資産の部				
科	目	本年度末	前年度末	増減
基本金		7,435,685,560	7,432,074,035	3,611,525
第1号基本金		7,399,685,560	7,396,074,035	3,611,525
第4号基本金		36,000,000	36,000,000	0
繰越収支差額		△ 3,430,485,426	△ 3,170,401,031	△ 260,084,395
翌年度繰越収支差額		△ 3,430,485,426	△ 3,170,401,031	△ 260,084,395
純資産の部合計		4,005,200,134	4,261,673,004	△ 256,472,870
負債及び純資産の部合計		4,261,513,025	4,496,000,726	△ 234,487,701

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

① 徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

② 退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

① 有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

② たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法である。

③ 預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。

④ 食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は純額で表示している。

2. 重要な会計方針の変更等

なし

3. 減価償却額の累計額の合計額

4,153,009,178 円

4. 徴収不能引当金の合計額

0 円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

なし

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

1,855,082 円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 純額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

(単位 円)

支 出	金 額	収 入	金 額
管理経費支出	16,497,870	補助活動収入	11,825,404
計	16,497,870	計	11,825,404
純 額	4,672,466		

貸借対照表とは、決算日(3月31日)現在における学校法人の資産および負債・純資産(基本金・繰越収支差額)の内容や構成バランスを表しています。

令和2年度決算において、資産の部の有形固定資産は、土地、建物、構築物、備品等の合計32億4443万9026円が計上されています。特定資産は、退職給与引当特定資産と減価償却引当特定資産の合計8億4325万6602円が計上されています。その他の固定資産は、借地権等の410万1548円が計上されています。流動資産には、現金預金等1億6971万5849円が計上されており、資産総額は42億6151万3025円となっております。

負債の部の固定負債は、退職給与引当金等の合計1億4961万176円が計上されています。流動負債は、授業料等の前受金等の合計1億670万2715円が計上されており、負債総額は2億5631万2891円となっております。

純資産の部の基本金は、第1号基本金(自己資金で取得した基本金設定の対象となる資産)73億9968万5560円と、第4号基本金(恒常的に保持すべき資金の額)3600万円の合計74億3568万5560円が計上されています。繰越収支差額は、事業活動支出超過額の累計額34億3048万5426円が計上されています。

固 定 資 産 明 細 表

令和 2年4月 1日から

令和 3年3月31日まで

(単位 円)

科 目		期 首 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	期 末 残 高	減価償却額の累計額	差 引 期 末 残 高	摘 要
有 形 固 定 資 産	土 地	365,559,518	0	0	365,559,518		365,559,518	
	建 物	4,962,338,476	0	0	4,962,338,476	2,623,190,021	2,339,148,455	
	構 築 物	333,177,604	0	0	333,177,604	328,217,637	4,959,967	
	教育研究用機器備品	1,170,157,128	1,682,030	720,580	1,171,118,578	1,102,777,255	68,341,323	
	管理用機器備品	105,849,497	0	0	105,849,497	81,440,072	24,409,425	
	図 書	439,781,802	2,173,586	29,014	441,926,374	0	441,926,374	注1
	車 輛	14,535,340	0	0	14,535,340	14,441,376	93,964	
計	7,391,399,365	3,855,616	749,594	7,394,505,387	4,150,066,361	3,244,439,026		
特 定 資 産	退職給与引当特定資産	153,106,469	0	4,818,753	148,287,716	0	148,287,716	
	減価償却引当特定資産	844,968,886	0	150,000,000	694,968,886	0	694,968,886	注2
	計	998,075,355	0	154,818,753	843,256,602	0	843,256,602	
そ の 固 定 他 資 産 の 産	借 地 権	600,000	0	0	600,000	0	600,000	
	電 話 加 入 権	2,924,514	0	0	2,924,514	0	2,924,514	
	施 設 利 用 権	3,510,741	0	0	3,510,741	2,942,817	567,924	
	預 託 金	9,110	0	0	9,110	0	9,110	
	計	7,044,365	0	0	7,044,365	2,942,817	4,101,548	
合 計	8,396,519,085	3,855,616	155,568,347	8,244,806,354	4,153,009,178	4,091,797,176		

注1 当期増加 購入図書 1,867,440 円
寄贈図書 306,146 円

注2 当期減少 特定資産から現金預金に振替 150,000,000 円

借 入 金 明 細 表

令和 2年4月 1日から
令和 3年3月31日まで

(単位 円)

借 入 先		期 首 残 高	当 期 増 加 額	当 期 減 少 額	期 末 残 高	利 率	返 済 期 限	摘 要
長 期 借 入 金	公 的 金 融 機 関				0			
		小 計	0	0	0			
	市 中 金 融 機 関							
		小 計	0	0	0	0		
	そ の 他							
		小 計	0	0	0	0		
計		0	0	0	0			
短 期 借 入 金	公 的 金 融 機 関							
		小 計	0	0	0	0		
	市 中 金 融 機 関							
		小 計	0	0	0	0		
	そ の 他							
		小 計	0	0	0	0		
返 済 期 限 が 1 年 以 内 の 長 期 借 入 金		0	0	0	0			
計		0	0	0	0			
合 計		0	0	0	0			

基本金明細表

令和 2年4月 1日から
令和 3年3月31日まで

(単位 円)

事 項	要組入高	組入高	未組入高	摘要
第1号基本金				
前期繰越高	7,398,434,620	7,396,074,035	2,360,585	
当期組入高				
1. 教育研究用機器備品				
機器備品の購入に係る組入れ	1,682,030	961,450		
除却した機器備品に係る基本金額	△ 720,580			
過年度未組入れに係る当期組入れ				
機器備品に係る未払金支払に伴う組入れ		511,920	△ 511,920	
小 計	961,450	1,473,370	△ 511,920	
2. 図書				
図書の購入に係る組入れ	1,867,440	2,123,870	20,702	
図書の現物寄付に係る組入れ	306,146			
除却した図書に係る基本金額	△ 29,014			
過年度未組入れに係る当期組入れ				
図書に係る未払金支払に伴う組入れ		14,285	△ 14,285	
小 計	2,144,572	2,138,155	6,417	
計	3,106,022	3,611,525	△ 505,503	
当期末残高	7,401,540,642	7,399,685,560	1,855,082	
第4号基本金				
前期繰越高	36,000,000	36,000,000	0	
当期末残高	36,000,000	36,000,000	0	
合計				
前期繰越高	———	7,432,074,035	2,360,585	
当期組入高	———	3,611,525		
当期末残高	———	7,435,685,560	1,855,082	

令和2年度事業報告書

1 法人の概要

(1) 基本情報

①学校法人原田学園

②岡山県倉敷市有城 787 番地 086-428-2651 086-429-0323 <https://owc.ac.jp>

(2) 建学の精神

建学の精神は、本学の創立者である原田林市初代理事長・学長が大正13年に岡山県浅口郡鴨方町六条院に設立した「岡山県生石高等女学校」の建学の精神、教育三綱領「自律創生、信念貫徹、共存共栄」を継承し、本学公式ウェブサイトにおいて次のように示し、学内外に表明している。

教育三綱領（1924年制定）
創立者がその私学で養成する人物像を示したものが「建学の精神」です。
岡山学院大学・岡山短期大学の建学の精神は、「教育三綱領」です。
教育三綱領を基に、岡山学院大学では管理栄養士、そして岡山短期大学では保育者を育成します。

「自律創生」
道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

「信念貫徹」
目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

「共存共栄」
社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。
この教育三綱領の意味は「人間は信念をもって生きるものであり、信念のない人間は舵のない船のようなものである。信念とは人間の生きる道であり、道は道路と同じで、必ず踏み行わなければならない。道を行かなければがををし、あやまちをする。信念をもって如何なることがあろうとも道はずさず生きるとの信念を徹底しなければならない。そして、この道は人間により拓かれ、道徳的理想に向かって人間の本務を体得するもので、価値としての自我の創造につとめるとともに校風の発展に努力し、更にはその道によって世界の人間と交流し、日本国民としての自覚をもって世界の平和に貢献せよ。」ということです。

(3) 法人の沿革

- 昭和 25 年 12 月 学校法人原田学園設置認可(岡山県山陽中学校・岡山県山陽高等学校)
- 昭和 26 年 2 月 岡山県浅口郡鴨方町に岡山女子短期大学(家政科 入学定員 80 名)を開設
- 昭和 28 年 4 月 岡山県山陽中学校休校
- 昭和 31 年 4 月 岡山女子短期大学附設幼稚園教員養成所(入学定員 20 名)を附設
- 昭和 33 年 4 月 保育科(定員 40 名)を増設
- 昭和 34 年 3 月 附設幼稚園教員養成所を廃止
- 昭和 38 年 4 月 栄養科(定員 40 名)を増設
- 昭和 39 年 4 月 保育科定員増(定員 50 名)、栄養科定員増(定員 60 名)
- 昭和 40 年 4 月 栄養科定員増(定員 80 名)
- 昭和 43 年 4 月 保育科定員増(定員 100 名)、栄養科を食物栄養科とし、定員増(定員 100 名)
- 昭和 45 年 4 月 家政科を家政学科、食物栄養科を食物栄養学科、保育科を幼児教育学科と改める
- 昭和 45 年 11 月 倉敷市有城に校地を取得
- 昭和 47 年 10 月 家政学科、食物栄養学科を倉敷に移転
- 昭和 49 年 4 月 学校法人原田学園経営の岡山県山陽高等学校を寄附行為変更により、新設の学校法人第一原田学園に移管
- 昭和 51 年 4 月 幼児教育学科定員増(定員 150 名)
- 昭和 53 年 4 月 幼児教育学科を倉敷に移転
- 昭和 59 年 12 月 カタ' BC 州立マラスピナレッジ(現カタ' BC 州立バンクーバー・アイランド・ユニバーシティ)と姉妹校提携する
- 昭和 60 年 12 月 英語科(定員 100 名)設置認可

- 昭和 61 年 4 月 岡山県山陽中学校廃止、家政学科定員減(定員 50 名)
- 昭和 61 年 4 月 英語科(定員 100)を増設
- 平成元年 4 月 家政学科の名称を生活情報学科に変更
- 平成 3 年 4 月 食物栄養学科期間付定員増(定員 150 名)、英語科期間付定員増(定員 150 名)
- 平成 9 年 4 月 専攻科食物栄養学専攻が学位授与機構の認定を受ける
- 平成 10 年 4 月 専攻科食物栄養学専攻が 3 年制栄養士養成施設の指定を受ける
- 平成 11 年 6 月 平成 12 年 4 月 1 日より「岡山短期大学」に名称変更認可
- 平成 12 年 4 月 校名を「岡山短期大学」に変更し男女共学とする
食物栄養学科及び英語科の期間付入学定員を期間終了により解消
- 平成 13 年 12 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)
及び生活情報コミュニケーション学科(定員 100)設置認可
- 平成 14 年 1 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)が管理栄養士養成施設の指定認可を受ける
- 平成 14 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科(定員 100)
及び生活情報コミュニケーション学科(定員 100)新設
- 平成 14 年 4 月 岡山短期大学生生活情報学科(定員 50)、
食物栄養学科(定員 100)及び英語科(定員 100)の学生募集を停止する
- 平成 15 年 3 月 岡山短期大学生生活情報学科(定員 50)、英語科(定員 100)を廃止する
- 平成 16 年 3 月 岡山短期大学食物栄養学科(定員 100)を廃止する
- 平成 16 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部生活情報コミュニケーション学科の名称を人間情報学科に変更
- 平成 18 年 3 月 岡山短期大学が財団法人短期大学基準協会の第三者評価により適格認定を受ける
- 平成 19 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科(定員 100)の学生募集を停止する
- 平成 19 年 4 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科(定員 40)開設
- 平成 22 年 3 月 岡山学院大学人間生活学部人間情報学科(定員 100)を廃止する
- 平成 22 年 4 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科入学定員を 100 名から 40 名に変更
- 平成 22 年 4 月 岡山短期大学幼児教育学科入学定員を 150 名から 100 名に変更
- 平成 22 年 4 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科(定員 40)の学生募集を停止する
- 平成 23 年 3 月 岡山学院大学が財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の認定を受ける
- 平成 25 年 3 月 岡山短期大学が一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価により第 2 評価期間の適格認定を受ける
- 平成 25 年 3 月 岡山学院大学キャリア実践学部キャリア実践学科を廃止する
- 平成 30 年 3 月 岡山学院大学が公益財団法人日本高等教育評価機構の平成 29 年度大学機関別認証評価による第 2 評価期間の認定を受ける
- 平成 31 年 1 月 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の教職課程(栄養教諭一種免許状)が再課程認定を受ける
岡山短期大学幼児教育学科の教職課程(幼稚園教諭二種免許状)が再課程認定を受ける
- 令和 2 年 3 月 岡山短期大学が一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価により第 3 評価期間の適格認定を受ける
- 令和 2 年 4 月 原田学園寄附行為の変更が令和 2 年 2 月 12 日付元文科高第 940 号にて認可され令和 2 年 4 月 1 日付で施行した。

(4) 設置する学校・学部・学科等

岡山学院大学 人間生活学部 食物栄養学科
岡山短期大学 幼児教育学科

・学年・学期・休業日

学年

4月1日～翌年3月31日

学期

前期 4月1日～9月10日

後期 9月11日～翌年3月31日

休業日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

日曜日

春期休業 3月21日～3月31日

夏期休業 8月1日～9月10日

冬期休業 12月22日～翌年1月7日

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況（令和2年5月1日現在）

学 校 名	学部・学科等名	開設年度	入学定員	入学者数	収容定員	現員	充足率	備 考
岡山学院大学	人間生活学部 食物栄養学科	年度 H14	人 40	人 18	人 160	人 98	0.61	編入学者数1
岡山短期大学	幼児教育学科	年度 S33	人 100	人 39	人 200	人 80	0.40	

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
岡山学院大学	0.85	0.73	0.67	0.71	0.61
岡山短期大学	0.78	0.80	0.65	0.54	0.40

(7) 役員の概要

・役員・教職員の概要（令和2年5月1日現在）

理事総数6名（定数5～7名）学内3名、学外3名

氏名	就任年月日	重任年月日	常勤・非常勤
原田博史	S61.4.1	H30.4.1	常勤
尾崎 聡	H22.4.1	H30.4.1	常勤
竹原良記	R2.3.25		常勤
原田了子	H10.4.1	H30.4.1	非常勤
林 伸雄	H31.1.9		非常勤
川西正泰	H6.4.1	H30.4.1	非常勤

監事総数2名（定数2名）学外2名

氏名	就任年月日	重任年月日	常勤・非常勤
小野 聡	H26.7.30	H30.4.1	非常勤
三宅俊弘	H28.7.6	H30.4.1	非常勤

(8) 評議員の概要（令和2年5月22日現在）

評議員総数15名（定数15名～20名）

氏名	就任年月日	重任年月日
宮崎正博	H27.3.25	H30.4.1
尾崎 聡	H22.4.1	H30.4.1
竹原良記	R2.3.25	
原田俊孝	H25.3.27	H30.4.1

中塚志津子	S49. 4. 1	H30. 4. 1
森上敏子	H22. 4. 1	H30. 4. 1
原田了子	H10. 4. 1	H30. 4. 1
林 伸雄	H31. 1. 9	
原田博史	S61. 4. 1	H30. 4. 1
高橋啓子	H29. 5. 31	H30. 4. 1
小林直美	R1. 5. 29	
今井裕美	H28. 5. 25	H30. 4. 1
川西正泰	H6. 4. 1	H30. 4. 1
岡本 定	H21. 3. 26	H30. 4. 1
高橋利英	H28. 7. 6	H30. 4. 1

(9) 教職員の概要 (令和2年5月1日現在)

専任教職員数 (人)

	法人	岡山学院大学	岡山短期大学	合計
専任教育職員		16	12	30
専任事務職員	1	9	8	18

兼担及び非常勤教員数 (人)

	岡山学院大学	岡山短期大学
兼任教員	9	3
非常勤教員	8	10

2 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

岡山学院大学

岡山学院大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生:道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹:目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄:社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、21世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15歳から65歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する Society 5.0 時代の人材を本学の「人間教育」と免許・資格を取得する「技術・技能教育」をもって育成することである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、管理栄養士養成の教育目標を達成することを使命とする。

人間生活学部食物栄養学科の教育目標

人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

4年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。食物栄養学科では将来、こうした管理栄養士に成長できる実力を育てるために次の教育目標を掲げている。

- ① 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成
- ② 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成
- ③ 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成
- ④ 人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

I. 専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応する管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、①多様な専門領域に関する基本となる専門的知識、②チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力、③公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力、④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

また、学習支援を行う教員とのコミュニケーションをとおして、①栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解でき、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解できる力、②職業生活や社会生活に必要な数量的スキルや情報リテラシー、③職業生活や社会生活でも必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーションの能力として自己表現力、論理的思考力、問題解決力、他者理解力、④社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位:学士(栄養学)

Society 5.0 時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、基礎教養科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

- ① 学位授与に必要な単位を修得している。
- ② 卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度(心構え)や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

コアカリキュラムとサブカリキュラムを編成実施する。

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための科目をコアカリキュラムに編成する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」をコアカリキュラムの中に科目指定する。

特に授業においては、科目の専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果も獲得できるように実施する。

更に、希望者に対して、栄養教諭一種免許状、フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書、社会教育主事任用資格などが取得できるサブカリキュラムも編成し、実施する。

また、汎用的学習成果の獲得を支援する基礎教養科目も編成し、実施する。

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・管理栄養士の仕事を理解している。
- ・卒業後、管理栄養士として職業に就く。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・生物、化学を基礎とする学習に努力できる。

岡山短期大学

岡山短期大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生：道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹：目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄：社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、岡山短期大学の教育理念は、学生一人ひとりが強い信念をもち、それぞれが志した学習目標を達成し、本学で修得した知識、技能および免許・資格を活かした進路を確実に得、本学および社会の発展に寄与する人材を育てることである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、保育者養成の教育目標を達成することを使命とする。

幼児教育学科の教育目標

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、乳児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成する。

本学科の保育者養成の教育目標

- ① Society 5.0時代のAIに代表される技術革新の進歩やIoTの広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の20年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成する。
- ② 幼児教育において育みたい「資質・能力」の三つの柱「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」を育成することのできる保育者を養成する。
- ③ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことに向けて指導ができる保育者を養成する。
- ④ すべての子どもが安心して過ごせるよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの生活状況や実態に合わせて気持ちが前向きになるよう満たすような働きかける養護と幼児教育を一体的に展開するために、保育の実態を評価し保育を改善し続けることができる保育者を養成する。

更に、卒業後の目標として、次の、公務員となる公務員養成コース、及びSociety 5.0時代の保育者となるSociety 5.0保育者養成コースを設ける。

公務員養成コース

基礎教育科目の「公務員講座（A）」「公務員講座（B）」で公務員試験出題科目を集中的に学習すると共に、「卒業予備研究（B）」「卒業研究（A）」を通して集中的に公務員試験受験のための社会人基礎力を獲得し公務員試験に合格する。

Society 5.0保育者養成コース

基礎教育科目の「ソサエティ5.0理解」「情報処理基礎」「情報処理演習」「ICTリテラシー（A）」及

び「ICTリテラシー (B)」の学習を通して Society 5.0 時代の保育者に必要な ICT 技術を修得すると共に、「卒業予備研究(B)」「卒業研究 (A)」「卒業研究 (B)」で「模擬保育室」「保育相談実践室」の Society 5.0 化を研究し Society 5.0 時代の保育者になる。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基に、自律した信念のある社会人となることである。

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応する保育者(幼稚園教諭・保育士)になるため、学科の教育課程(基礎教育科目および専門教育科目)の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

I. 専門的学習成果

幼児教育施設(幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園)の現場で、幼児教育(環境を通して行う教育)とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、乳児期への学びの連続性を考えることができる能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。

社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活で必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位：短期大学士(幼児教育学)

Society 5.0 時代の現場に即応する保育者になるため、学科の教育課程(基礎教育科目および専門教育科目)の学習を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業認定の際に獲得していることを求める学習成果は次のとおりである。

Society 5.0 時代の現場に即応できる保育者に求められる専門的学習成果と社会人・職業人として求められる汎用的学習成果を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を30単位とするため、基礎教育科目及び専門教育科目と合わせた単位の上限を30単位とし、可能な限り25単位に近づけるように科目を開講する。

専門教育科目の編成と実施

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目と、保育士資格取得に必要なカリキュラムを編成する。

授業の実施は、専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果をも獲得できるように実施する。

基礎教育科目の編成と実施

免許法施行規則の第66条の6に定める科目と共に、卒業後、公務員となる公務員養成コース及び Society 5.0 時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースに必要な授業科目を編成する。

意欲ある学生に対して図書館司書および社会教育主事任用資格を取得できる科目を編成し、実施する。

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・自分のなりたい保育者像が明確である。
- ・子どもが好きで、心身ともに健康で、何事にも積極的である。
- ・幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得し、卒業後保育者として就業する。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・体育や図画工作、音楽が好きで、特にピアノについては、基礎技能を身に付けようと努力できる。

(2) 中期的な計画(教学・人事・施設・財務等)及び事業計画の進捗・達成状況
 中期計画は「学校法人原田学園経営改善計画(平成30年～平成34年)」として策定しており、その概要を以下に示す。(

1. 経営改善計画最終年度における財務上の数値目標

- 平成34年度までに経営判断指標B3からの脱却
- 平成32年度に大学学生数134名、短大学生数220名を確保
- 平成29年度決算経常収支差額比率△45.6%を、平成32年度決算経常収支差額比率△13.3%にする
- 帰属意識のない短大教員2名の人員削減により、人件費削減
- 事業活動収支計算書(見込)(単位:千円)

区分	H29	H30見込	H31見込	H32見込	H33見込	H34見込	備考
経常収入	372,682	323,868	420,442	480,376	519,747	539,849	
うち学生生徒等納付金	263,593	234,953	288,648	358,119	406,056	427,966	
うち経常費等補助金	76,847	63,104	88,573	81,750	77,678	75,662	
経常支出	542,201	537,260	558,297	543,939	535,115	530,724	
うち人件費	282,585	275,345	290,287	284,369	277,655	275,344	
うち教育研究経費	185,003	189,470	190,070	188,090	186,440	184,810	
うち管理経費	73,927	72,400	77,940	71,480	71,020	70,570	
経常収支差額	-	-	-	-63,563	-15,368	9,125	
	169,519	213,392	137,855				
うち減価償却額影響額	-96,651	-97,000	-97,000	-97,000	-97,000	-97,000	

○ 活動区分資金収支計算書(見込)(単位:千円)

区分	H29	H30見込	H31見込	H32見込	H33見込	H34見込	備考
教育活動資金収支差額	-89,708	-86,639	-24,786	32,697	80,882	105,275	
施設整備等活動資金収支差額	-23,334	-32,900	-29,350	-29,260	-4,170	-4,080	
その他の活動資金収支差額	940	-395	730	740	750	750	
計	-	-	-53,406	4,177	77,462	101,945	
	112,102	119,934					

○ 運用資産・外部負債(見込)(単位:千円)

区分	H29	H30見込	H31見込	H32見込	H33見込	H34見込	備考
運用資産	1,466,279	1,342,196	1,288,824	1,293,129	1,370,765	1,472,710	
外部負債	27,241	18,549	33,493	27,575	20,860	18,549	
差引	1,439,038	1,323,647	1,255,331	1,265,554	1,349,905	1,454,161	

(注) 運用資産=現金預金、特定資産、有価証券

(注) 外部負債=長期借入金、学校債、長期未払金、短期借入金、1年以内償還学校債、未払金、手形債務

2. 建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像

- 教育三綱領「自律創生、信念貫徹、共存共栄」を基にした学生の学習成果の獲得

岡山学院大学の教育理念は、21世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15歳から65歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する人材を本学の「人間教育」と「技術・技能教育」をもって育成することである。

岡山短期大学の教育理念は、学生一人一人が強い信念を持ち、それぞれが志した学習目標を達

成し、本学で修得した知識、技能および資格を活かした進路を確実に得、社会の発展に寄与する人材を育てることである。

3. 実施計画

(1) 教学改革計画

- 平成 30 年度に「NST・OGS」の活動を活発化し、学生が大活躍する体制を整える。
- 平成 30 年度にネットワークを再構築し、11 月までに新しいホームページを整える。
- 「学生が大活躍する大学づくり」の構築（平成 30 年度から）
- 信用から始まる定員確保、退学者ゼロ計画の実施（平成 30 年度から）
- 倉敷市と浅口市との産学官連携事業の実施（平成 30 年度は準備、平成 31 年度より実施）

(2) 学生募集対策と学生数・学納金等計画

- オープンキャンパスの質及び量の充実化（平成 30 年度より）
- 在学生の高校訪問の実施（平成 30 年度より）
- 平成 30 年度 11 月より本学ホームページを再構築

(3) 外部資金の獲得・寄付の充実・遊休資産処分等計画

- 同窓会寄付、後援会助成金、卒業寄付の充実を図る（平成 30 年度より）。
- 鴨方校地に専門職大学、専門職短期大学の設立をめざす（平成 34 年度より）。

(4) 人事政策と人件費の削減計画

- 帰属意識がない教員を削減し人件費削減（平成 30 年度より 1 名、平成 31 年度より 1 名）
- 人件費依存率 80%以下（平成 32 年度より）

(5) 経費削減計画（人件費を除く）

- 広告費を前年度比 3%削減と広告方法のシフト（平成 31 年度より平成 34 年度まで）
- 消耗品費の削減（より安価なところで購入）（平成 30 年度より）
- 光熱水費の削減（年間 2%減を目標）（平成 30 年度より）

(6) 施設等整備計画

- 学生生活充実のために、現有の施設設備の有効利用、稼働率を上げる（平成 30 年度より）。
- ネットワーク再構築計画の実施（平成 30 年 11 月まで）
- 耐震診断の実施（平成 30 年度に検討、準備、実施）

(7) 借入金等の返済計画

- 平成 30 年 9 月より、借入金全てを返済する。

進捗・達成状況

計画全般

計画の3年目であるが、初年度の実施成果を次のように分析・総括し、更に改善を進める。実施成果を図るうえで一番重要なのは、入学者を増加することである。

令和 2 年度の入学予定者が減少した要因は、次の①広報活動の質の低下、②大学・短大の魅力の発信、③高校訪問の在り方などであると考察した。

令和 2 年度に実施した令和 3 年度募集の入学予定者は大学 22 名、短大 54 名であり、昨年度と同様厳しい結果となった。令和 2 年度と比較して大学は微増、短大は増加し改善したところもあるが、新型コロナウイルスの影響により都会に人が流れていないことなどの外的要因もあったにもかかわらず、入学定員に届いていないのが現状である。従って令和 3 年度の入学予定者の定員未充足も同様に①広報活動の質の低下、②大学・短大の魅力の発信、③高校訪問の在り方が上げられ、そしてそれに加えて大学における在学生の満足度の低下から、④大学の教学マネジメントの改善を図ることが重要であると考察する。

① 広報活動の質の低下

平成 30 年度と令和元年度では、特にウェブサイトの更新や SNS の更新に力を入れてきた。その結果、大学・短大の学生から「以前よりホームページが使いやすい」、「SNS も楽しい」という感想もあり、広

報ツールとして活用が来ている。また、ガイダンスやオープンキャンパスなどで Face to Face の広報にも力を入れてきた。しかしながら、18 歳人口の減少などで、オープンキャンパスの参加者も減少した。減少した要因は、これまで広報専属の広報担当者の不在であったため、様々な部署の限られた業務の中での広報活動の質の低下によるものだと考察する。

令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響により、3 月 OC は中止、5 月、6 月 OC は規模縮小などで広報活動は苦戦した。新型コロナウイルスの対応策として、スクールリンクコンタクトを使ったオンラインガイダンスを実施するなど対応し最小限の被害に食い止めた。また、令和 2 年度に採用した短大事務職員を中心に Instagram の SNS を活用を促進させた結果「他の短期大学よりすごく楽しそう」「学生と教員の距離が近いというのが本当にわかった」という SNS をみた受験生（現短大 1 年生）の高評価を得ており短大の入学者が増加した要因になったと考える。今後より一層 SNS などで短大生活を発信し、学生自らが岡山短期大学を広報したくなる体制を目指していく。

大学の広報活動は、学生の満足度を高めるとともにその結果が公表できるよう学生確保推進委員会の見直しと教学マネジメントの改善を図り、「大学の総合型選抜及び学校推薦型選抜で入学予定者 36 名以上」の目標を達成する。

② 大学・短大の魅力の発信

これまで、「信用から始まる定員確保」と「退学者ゼロ計画」を実施してきた。ステークホルダーからは、「退学者ゼロ計画」の実施と結果について好評を得たが、地元の高等学校から過去の本学のイメージにより送り出すことは難しいと信用されず、大学・短大の魅力の発信に繋がっていないことがわかった。今後も、過去の本学のイメージの払拭が重要であると考察する。

③ 高校訪問の在り方

高校訪問の目的（7 月・9 月実施）は、本学の広報活動と在学生（卒業生）の様子を高等学校に知らせることを目的としてきた。特に、信用から始まる定員確保を達成するために、在学生（卒業生）の様子を高等学校に知らせることを重点としていたが、専任教員のこれまでの報告書の内容を精査すると、本学の強みの広報活動が疎かになっていたことが判明した。

以上、入学予定者が減少した要因を解決するために、令和 2 年度は「高校生に近い年代の事務職員の配置」と「高校訪問の質的向上」を実施し V 字回復元年度としたが、新型コロナウイルス感染症により高校訪問の改善をするのは出来なかった。

④ 大学の教学マネジメントの改善

これまで大学は 1. 「多数の資格を取得できる栄養大学！」 2. 「地域の栄養教育を推進する大学！」 3. 「学費最小で、最大の夢を実現する大学！」とし、現場に即応する管理栄養士を養成してきた。しかし、入試広報において定員確保は出来ておらず、最大の目標であった「管理栄養士国家試験全員合格」の目標を未だ達成出来ず、令和 2 年度の管理栄養士国家試験の合格率 60%（10 人受験、6 人合格）であるなど、大学の教学マネジメントの全体の見直しを図る必要があることがわかった。大学の教学マネジメントの全体の見直しとして教育課程を点検した結果、平成 14 年度か令和 2 年度までひたすら管理栄養士の養成を焦点に捨てており、時代の変遷に対応できていないことが分かったので、我が国の第 5 期科学技術基本計画（平成 28 年度から令和 2 年度）において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱され、最終年度の本年は急速に実現されようとする Society5.0 の人材養成を新たな目的に掲げて、① Society5.0 時代の現場に即応する管理栄養士を養成することを教育目標とし、教育課程の基礎教育科目の内容を Society5.0 時代に必要な 3 つの力（クリエイティブ力・マネジメント力・ホスピタリティ力）をしっかりと築くことができるように見直しを図った。

また、加えて教員と学生が密に連携がはかれるよう②学習成果の獲得を確実にする PDCA サイクルを作成し右肩上がり着実にステップアップを図る学修マネジメント計画の実施し、さらに、③教員が 4 チームに別れ、1 チーム 4 人体制できめ細やかな支援をする就職・進学支援プログラムを実施する。

○ 高校生に近い年代の事務職員の配置

令和 2 年度に短期大学の専任事務職員 1 名を採用した。採用者の属性は以下のとおりである。

- 岡山短期大学の令和 2 年 3 月卒業生（男性）
- 保育士資格及び幼稚園教諭 2 種免許状を取得
- 非常に愛校心が高い
- 非常に行動力が高く、SNS などの広報活動では、若者ならではの意見を述べるができる。ま

た、令和元年度の岡山短期大学のオープンキャンパスを企画し実施した。

短大事務職員の愛校心を最大限に活かし、短大の魅力の発信を行った。前述したとおり、令和2年度に採用した短大卒業生の事務職員を中心としたInstagramのSNSの活用により、短大の受験生の増加を得たが、大学の公報に対する知識が不足していることは否めない。大学の魅力を発信するために、本学職員として大学の内容が分かるよう指導する。また、学長や学園主事、学科長などから積極的に情報を得る体制を整え、6月までに大学の広報が1人で発信できるようにする。

・高校訪問の質的向上

新型コロナウイルス感染症により、県外の高校訪問を中止した。

1. 経営改善計画最終年度における数値目標について

1) 信用から始まる定員確保

(オープンキャンパス)

令和2年度学生募集に係るオープンキャンパスの参加者数の推移

	年度	3月	5月	6月	7月	8月①	8月②	9月	合計
大学	H29	17	20	16	30	27		21	131
	H30	23	14	28	34	26	22	21	168
	R1	24	17	14	27	23	18	17	140
	R2	×	2	10	8	14		12	46
短期大学	H29	35	52	40	60	65		59	311
	H30	38	34	46	41	36	25	34	254
	R1	17	35	30	43	21	35	11	192
	R2	×	17	24	17	24		22	104

これまでオープンキャンパスの参加者数を増加させる方策として、「face to faceの広報活動の増加」、「リピートカードの導入」をしてきた。また、平成30年度及び令和元年度では、ウェブページの更新やSNSの更新に力を入れてきた。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、3月が中止、5月・6月は規模縮小実施、8月はオンラインオープンキャンパス実施など、オープンキャンパスの内容は例年と異なった。しかし、いち早くオンラインオープンキャンパスやオンラインガイダンスを実施したことにより、受験生と接触する機会を得ることができたので、令和3年度入学生の募集の結果は令和2年度より更なる減少という最悪の事態は免れたが、入学定員を充足するためには更なる工夫が必要である。

(SNS)

SNSの利用について、学生からは好評を受けている。例えば、岡山短期大学の令和元年度卒業研究報告会で、SNSの利用について、学生が研究し利点と課題を取り上げたことがあった。勿論、これからのSNSの利用に取り入れるが、学生からの意見を積極的に取り入れる体制を整え、より効果的なSNSの利用を図る。

2) 退学者ゼロ計画

(社会人受け入れ態勢)

社会人受け入れ体制の整備は進んでいないが、令和2年度から図書館司書科目を科目等履修生でも受け入れることを決定した。科目等履修生の授業として別に設けるので、在学生に影響を及ぼすことはない。

(経費削減と人事政策)

人件費依存率：29年度 107.2%、30年度 120.1%、元年度132.7%、2年度142.5%

膨れ上がった人件費依存率を80%以下にするためには、入学者を増加し教職員の人件費を抑えなければならない。入学者の増加が最重要課題である。令和2年度は、大学及び短大併せて2名の教員が退職により人件費を削減し、令和3度は短大教員1名、事務職員2名の退職による人件費の削減を図ることになった。今後も人事政策を図っていく所存である。

2. 建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（以下、グランドデザイン答申）を基に、岡山学院大学・岡山短期大学のグランドデザイン答申を構築した。令和元年度は、地方創生の高等教育機関として、大学間連携の在り方をFD・SDワークショップで確認した。

大学間連携として、2020年1月15日に環太平洋大学と包括協定を結んだ。包括協定により、本学の食物分野と環太平洋大学の体育分野の交流が可能となり、岡山県の地域への貢献につながる。しかし新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度の環太平洋大学との交流は、実施することはできなかった。

3. 実施計画

(1) 教学改革

カリキュラム改革・キャリア支援等

令和元年度は学生満足度を向上させる取組として、倉敷市真備地区へのボランティアを実施した。岡山学院大学のNSTの取組の一環として行ったが、他大学の学生とのつながりなどもあり、キャンパスライフの充実支援にもつながったと考察する。しかし、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により様々なイベントが中止になり地域貢献する機会が減少し、学生は遠隔授業を実施とその課題に追われそれが不満となり、学生生活を満足度の向上を図ることはできなかった。令和3年度はMoodleを導入し少しでもコミュニケーションを取りやすい環境を作り、学生生活の不満を軽減していく。

今年度のホームカミングデーの参加者の人数は次のとおりである。

前年度参加者数：38名

令和2年度は新型コロナウイルス感染症により実施していない。

(2) 学生募集対策と学生数・学納金等計画

令和2年度は、高校訪問について、今後新たな学校に訪問する予定はないが、継続的に短大入学生を送り出している高校を重点校として設定し高校訪問の質的向上を図ろうとしたが、新型コロナウイルスにより高校訪問の質的向上を図ることはできなかった。

(3) 外部資金の獲得・寄付の充実・遊休資産処分等計画

寄付金募集の実績はなかったが、学生の満足度が高くなったため、在学生の保護者（後援会）からオープンキャンパスや大学祭への参加を得た。地域住民から応援してもらえる大学・短大になるために、応援したい大学・短大の最初の一步である。

今後の方策として、様々な地域貢献活動を実施し、寄付金募集につなげていく。

(4) 人事政策と人件費の削減計画

前述したとおり、赤字経営から脱却するためには、信用からはじまる定員確保の実施と膨れ上がった人件費の削減が重要である。

膨れ上がった人件費依存率を80%以下にするためには、入学者を増加し教職員の人件費を抑えなければならない。入学者の増加が最重要課題である。

(5) 経費削減計画

広告費の前年度比3%削減を目標として、各業者に昨年度比3%削減を行ったが、新型コロナウイルス感染予防対策と消費税増税の影響により、削減することができなかった。また、テレビCMの実施など予定外の支出が膨れ上がってしまった。

引き続き、前年度比3%減を目標とし、削減できるところから調査する。

4. 組織運営体制

(1) 情報公開と危機意識の共有

専任の教職員は学生募集と学生満足度の向上を図ることが重要性であるとの危機意識の共有を図ることができた。

実施管理表

全般

総合的な進捗状況は、定員確保ができていないため、まだまだ見通しが出来ていないが、前述したとおり愛校心の強い事務職員の採用があったように、土台作りが出来ているようになった。

社会人受け入れ政策

社会人入学者が0人で社会人受け入れ体制の整備は進んでいないが、同窓生からの要望を受け、令和2年度から図書館司書科目を科目等履修生でも受け入れることを決定した。科目等履修生の授業として別に設けるので、在学生に影響を及ぼすことはない。

今後は、図書館司書の科目等履修生を対象に調査し、社会人としてどのような大学・短大に入学したいか調査する方向である。

地域創成を踏まえた産学官連携事業の実施

地域創成を踏まえた産学官連携を実施している最中である。

大学間連携として、2020年1月15日に環太平洋大学と包括協定を結ぶ。包括協定により、本学の食物分野と環太平洋大学の体育分野の交流が可能となり、岡山県の地域への貢献につながる。しかし、令和2年度の環太平洋大学との交流は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施することはできなかった。

信用から始まる定員確保

NST・OGSの取組は大変好評であり、受験生だけでなく、保護者からも「学生がオープンキャンパスで楽しんでいる様子を見て、志望校を変えて、岡山学院大学・岡山短期大学に決めた」という評価を得た。また、令和元年度の入学生の8割から9割の学生がNST・OGSに所属している。しかしながら、オープンキャンパスの参加者数が入学者増につながらなかった。

オープンキャンパスの増加をめざした広報活動が重要であり、令和2年度は、「信用から始まる定員確保」の精神の基、愛校心の強い事務職員のアイデアを積極的に取り入れ、他大学・短大と差別化を図る、新戦略「society5.0大学づくり」を実施する。

積算基礎1（岡山学院大学）

損益分岐点の観点から入学定員(50名)を満たす計画と進めているが、定員確保(40名)ができておらず、非常に困難な計画となっているが、実現可能な数字であると考えている。他大学との差別化を図る観点として、管理栄養士養成課程の学費の安さは、中国・四国でトップの安さであり、後援会からも「応援したい」「広報活動が不十分だ」「学費の安さをもっと広報することができれば、必ず入学生が増えるので頑張してほしい」というアドバイスもある。新たな方策として、オープンキャンパスの増加をめざした広報活動が重要であり、令和2年度は、「信用から始まる定員確保」の精神の基、愛校心の強い事務職員のアイデアを積極的に取り入れ、他大学・短大と差別化を図る、新戦略「society5.0大学づくり」を実施する。特に、大学の教学マネジメントの全体の見直しを図り、① Society5.0時代の現場に即応する管理栄養士を養成することを教育目標とし、基礎教育科目の内容をSociety5.0時代に必要な3つの力(クリエイティブ力・マネジメント力・ホスピタリティ力)をしつかりと築くことができるよう見直し、②PDCAを回し、着実にステップアップを図るマネジメント計画の実施、③教員が4チームに別れ、1チーム4人体制できめ細やかな支援をする就職・進学支援プログラムを実施し、そのための教職員の意識改革と組織編成の見直しを図る。

積算基礎1（岡山短期大学）

損益分岐点の観点から入学定員(120名)を満たす計画を進めているが、定員確保(100名)ができておらず、非常に困難な計画となっているが、実現可能な数字であると考えている。「岡山短期大学が好きで岡山短期大学に貢献したい」という在学生(令和2年3月卒業予定)が初めて出てきた。

OGSの活動が実になったと考えている。新戦略「society5.0大学づくり」を取り入れ、来年度からどのような学生を育てているのか高校訪問等で見てもらい、高校が安心して推薦できる短期大学になれると考えている。

運用資産の減少が見込まれており、令和3年度募集でもかなり厳しい結果となった。理事会や教授会で入学定員を減らし経常費補助金の継続受給を検討したが、その後の経営改善計画を分析した結果収入超過に至らないことが判明したため断念したが、令和4年度募集の総合型選抜と学校推薦型選抜で、入学予定者60名以上確保できなければ、短大の入学定員を80名に減らすことを進める手続きに入る予定である。

(3) その他

令和2年度FD・SDワークショップ報告書

日 時： 令和2年12月25日(木) 10:00～

場 所： Zoomによる遠隔ワークショップ

評 価 員： 九州情報大学・山口短期大学 理事長・学長 麻生隆史 先生

内 容： Covid-19感染防止のためZOOMミーティングで開催した。

時 間	内 容
10:00～11:00	岡山学院大学・岡山短期大学事務部 報告 1. SD会議実施報告について 2. Covid 19の感染防止対策実施結果について 3. オープンキャンパス実施結果について 4. 高等学校関係者からの意見聴取について 5. 各種アンケートについて 6. 防災を含む危機管理について 7. 事務部のSociety5.0時代への対応について (15分の質疑応答含む)
11:10～12:10	岡山短期大学幼児教育学科 報告 1. Covid 19による休校時の遠隔授業と学生の学習成果及び対面授業時の感染防止対策実施結果について 2. 授業アンケート(自由記述への対応、改善案等)について 3. 授業参観について 4. 外部評価(地域・高大接続連携校)について 5. 汎用的学習成果のエビデンスについて 6. 学習成果に関するアンケート 7. Society5.0保育者養成コースと公務員養成コースの実施報告 (15分の質疑応答含む)
12:10～13:00	昼休憩
13:00～14:00	岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 報告 1. Covid 19による休校時の遠隔授業と学生の学習成果及び対面授業時の感染防止対策実施結果について 2. Society5.0時代に対応する教育課程編成・実施の方針及び卒業認定・学位授与の方針の策定について 3. 授業アンケートの活用(自由記述への対応、改善案等)について 4. 栄養長寿教室等活動の取り組みと見直しについて 5. 就職先学習成果に関するアンケートについて 6. 外部評価の実施(地域の評価者による) (15分の質疑応答含む)
14:00～14:15	評価員の講評 (九州情報大学・山口短期大学 理事長・学長 麻生隆史 様)
14:15～14:30	総括(学長 原田博史)

評価書

岡山学院大学・岡山短期大学事務部 FD・SDワークショップ評価書
評価員所属 九州情報大学・山口短期大学 氏 名 麻生隆史
令和2年12月25日のFD・SDワークショップは岡山学院大学岡山短期大学SD(スタッフ・ディベロップメント)委員会規程に従って十分な内容であったか一般的なSDとして十分な内容であったか率直な評価をお願いします。

総評

本年度は、大学においても新型コロナ感染症対策を講じる必要があり、事務部においても個々案件に対応すべく例年とは違う学務運営であったであろう。

本年度は学園主事・事務部長が議長となり、定期的にSD会議が実施されており、オープンキャンパス、オンラインガイダンス、学校案内パンフレット及びFD・SDワークショップについて審議されている。課題として準備不足を掲げ今後の改善計画と行動計画を示している。

また、緊急事態であるコロナ禍においても、感染症防止対策、オープンキャンパス、高等学校関係者からの意見聴取、各種アンケート、防災における危機管理、事務部のSociety5.0への対応を詳細にわたって検証されている。これらはSD活動として十分な内容である。

特に、コロナ禍の中での取り組みにおいて平時とは違う課題も認識される中、適切に対応されており、その結果教育活動がほぼ支障なく実施できている。

緊急時においても本ワークショップを通じてその内容を全学的に共有し、さらに事務部で示された課題は教育に携わる非常勤講師を含む全教員がそれを共有・確認することにより、全学的な危機管理への迅速な対応や教育の質向上に繋がるであろう。

岡山短期大学幼児教育学科FD・SDワークショップ評価書

評価員所属 九州情報大学・山口短期大学
氏名 麻生隆史

令和2年12月25日のFD・SDワークショップは岡山学院大学岡山短期大学FD（ファカルティ・ディベロプメント）委員会規程に従って十分な内容であったかまた三つの方針・学習成果・点検・評価の方法などの観点から率直な評価をお願いします。

総評

本年度は以下の項目に関し報告された。

○COVID-19による遠隔授業と学生の学習成果及び対面授業時の感染防止対策実施結果

今回アンケートにより確認された緊急事態の遠隔授業や対面授業での感染防止対策について改善すべき点が課題として検証されている。学習成果を獲得させるにあたり、より効果のある手法を模索して個別に改善計画や行動計画の検討が必要である。

○授業アンケート

授業の最終回等で実施されている授業アンケートにより、深く各授業の課題を検証している。特にチャトルカードと自由記述の在り方については改善の余地を残している。さらなる改善計画・行動計画を検討されることを期待する。

○授業参観

「Society5.0に対応すべく、地域社会の指導者たる人材育成と養成」に着目し、ルーブリック評価を用いて深く検証されている。評価項目も教材やコミュニケーションの達成目標を設定しPDCAサイクルを実施している。今後もこれを恒常的に実施し、本学が目指す教育目標を実現するための教員の共通理解を深めることが重要である。

○外部評価（地域・高大連携）

「現場に即応できる保育者養成」の実現のためには外部評価は重要である。その実現のために連携校・一般の高校・地域社会を取り入れた評価になることを期待する。

○汎用的学習成果のエビデンス

全教員が汎用的学習成果の重要性を共通理解として持っている。そのエビデンスを課題として検証されている。汎用的学習成果は、建学の精神の具現化や教育目標の達成に深く関係しているので、さらなる検討を積み重ねることが望まれる。

○学習成果に関するアンケート

就職先へのアンケートは、汎用的学習成果・専門的学習成果両方において一部低い結果が出ているが、就職先が何を求めているのかを深く検証し、必要に応じて教育課程に反映する事も考えられる。

○Society5.0保育者養成コースと公務員養成コースの実施報告

二つのコースは時代のニーズにあっており、各コースの特色を検証している。今後、各コースにおける学生・教員・地域社会とのマッチングやニーズを検討されたい。

岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科 FD・SD ワークショップ評価書
評価員所属 九州情報大学・山口短期大学 氏 名 麻生隆史
令和2年12月25日のFD・SDワークショップは岡山学院大学岡山短期大学FD（ファカルティ・ディベロプメント）委員会規程に従って十分な内容であったかまた三つの方針・学習成果・点検・評価の方法などの観点から率直な評価をお願いします。
<p>総評</p> <p>本年度は以下の項目に関し報告された。</p> <p>○COVID-19による遠隔授業と学生の学習成果及び対面授業時の感染防止対策実施結果 遠隔授業に関するアンケートは学科教員に対して、COVID-19による遠隔授業における学習成果の獲得への影響を調査したものであるが、いくつかの課題はあったものの対面授業時にその補完をすることにより概ね学習成果の獲得を担保している。ただし新入生への対応は改善の余地を残している。感染防止対策に関してはできる対策を実施しており評価できるが、外部の方々への対応はマニュアル等を作成することが必要である。</p> <p>○Society5.0時代に対応する教育課程編成・実施の方針及び卒業認定・学位授与の方針の策定 内閣府が示す Society5.0 時代を栄養教育の観点を変え CP・DP を具体的に検証している。まだ検討の段階であるが、これらの方針を早急に具体化されることを期待する。</p> <p>○授業アンケートの活用（自由記述への対応、改善案等） 授業アンケートを毎年実施することにより授業改善に繋がってきているが、自由記述のありかたや全教員が活用できる方策等を今後より深く検討する余地を残している。</p> <p>○栄養長寿教室等活動の取り組みと見直し 本年度はコロナ禍の影響もあり限定的であったが、2年生の栄養マネジメントをループリックにより評価している。学生と教員が同じループリックを用いることにより現実的な評価となっているが、各項目の達成目標をさらに検討することにより良い評価となる。</p> <p>○就職先学習成果アンケート 専門的学習成果と汎用的学習成果について次年度授業への反映を目的として就職先のアンケートである。アンケート項目や実施時期の課題はあるものの詳細な検証により学習成果の達成度がより明確化している。これが各授業への改善に繋がっていくことを期待する。</p> <p>○外部評価（地域の評価者） 「現場に即応する管理栄養士の養成」の方針のもと、それを具現化するために地域の評価を取り入れ学習成果の獲得に資するものとなっている。今後、高大連携校と共により多くの地域の関係者からの評価が教育の質保証に繋がるであろう。</p>

令和2年度外部研究費の獲得

令和2年度学術研究助成事業助成金

研究代表者

- ・研究種目：若手研究／令和2年度～令和5年度
- ・研究課題名：「持続する大学進学支援策の条件：米国 AVID プログラムを事例として」
- ・研究代表者：福野裕美
- ・交付決定額（4年総計）：4,290,000円【直接経費：3,300,000円、間接経費：990,000円】
- ・令和2年度：1,170,000円【直接経費：90万円、間接経費：27万円】

研究分担者

- ・研究種目：基盤研究（C）／平成29年度～令和2年度
- ・研究課題名：「再発性尿路感染症に対する乳酸菌膾坐剤の有効性に関する基礎・臨床的エビデンスの構築」
- ・研究代表者：石井亜矢乃（岡山大学）
- ・研究分担者：狩山玲子（分担金）

- ・平成 29 年度：65,000 円【直接経費：5 万円、間接経費：1 万 5 千円】
- ・平成 30 年度：65,000 円【直接経費：5 万円、間接経費：1 万 5 千円】
- ・令和元年度：65,000 円【直接経費：5 万円、間接経費：1 万 5 千円】
- ・令和 2 年度：130,000 円【直接経費：10 万円、間接経費：3 万円】

令和 2 年度外部資金の獲得

令和 2 年度岡山県補助金

おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金（岡山県備中県民局）

補助金：7,000 円

3 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較 (5 か年間)

	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
固定資産	4,584,521,606	4,490,419,409	4,388,975,487	4,338,879,998	4,091,797,176
流動資産	575,990,660	457,965,883	297,788,778	157,120,728	169,715,849
資産の部合計	5,160,512,266	4,948,385,292	4,686,764,265	4,496,000,726	4,261,513,025
固定負債	176,891,143	164,958,543	157,488,778	154,940,849	149,610,176
流動負債	126,858,393	94,288,663	75,918,836	79,386,873	106,702,715
負債の部合計	303,749,536	259,247,206	233,407,614	234,327,722	256,312,891
基本金	7,350,572,143	7,377,228,487	7,383,438,862	7,432,074,035	7,435,685,560
繰越収支差額	△ 2,493,809,413	△ 2,688,090,401	△ 2,930,082,211	△ 3,170,401,031	△ 3,430,485,426
純資産の部合計	4,856,762,730	4,689,138,086	4,453,356,651	4,261,673,004	4,005,200,134
負債及び純資産の部合計	5,160,512,266	4,948,385,292	4,686,764,265	4,496,000,726	4,261,513,025

イ) 財務比率の経年比較

・ 運用資産余裕比率、流動比率、総負債比率、前受金保有率、基本金比率、積立率等

貸借対照表関係比率	医療法人以外大学法人 全国平均	短大法人 全国平均	評	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
固定資産構成比率	825%	80.9%	～	88.8%	90.7%	93.6%	96.5%	96.0%
有形固定資産構成比率				68.9%	70.2%	72.2%	74.2%	76.1%
特定資産構成比率				19.8%	20.5%	21.3%	22.2%	19.8%
流動資産構成比率	17.5%	19.1%	～	11.2%	9.3%	6.4%	3.5%	4.0%
固定負債構成比率	8.6%	9.4%	▼	3.4%	3.3%	3.3%	3.4%	3.5%
流動負債構成比率	6.5%	6.5%	▼	2.5%	1.9%	1.6%	1.8%	2.5%
内部留保資産比率				24.8%	24.4%	22.5%	19.4%	17.5%
運用資産余裕比率				263.4%	269.7%	226.6%	202.8%	196.9%
純資産構成比率				94.1%	94.8%	95.0%	94.8%	94.0%
繰越収支差額構成比率				△48.3%	△54.3%	△62.5%	△70.5%	△80.5%
固定比率	97.2%	95.3%	▼	94.4%	95.8%	98.6%	101.8%	102.2%
固定長期適合率	88.3%	85.5%	▼	91.1%	92.5%	95.2%	98.2%	98.5%
流動比率	269.7%	292.3%	△	453.5%	487.2%	392.1%	198.7%	158.9%
総負債比率	15.1%	16.0%	▼	5.9%	5.2%	5.0%	5.2%	6.0%
負債比率	17.8%	19.0%	▼	6.3%	5.5%	5.2%	5.5%	6.4%
前受金保有率	326.6%	430.1%	△	895.2%	852.8%	602.1%	297.2%	385.4%
退職給与引当特定資産保有率				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
基本金比率	95.8%	94.1%	△	99.7%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%
減価償却比率	35.5%	36.6%	～	57.8%	59.2%	60.5%	61.6%	63.0%
積立率				40.2%	36.3%	31.3%	26.2%	23.3%

医療法人以外大学法人全国平均及び短大法人全国平均は平成14年度版日本私立学校振興・共済事業団の平成13年度の値で、同様に評は「▼ 低い値が良い △ 高い値がよい ～ どちらとも言えない」を示している。

平成 26 年度の関係比率の平成 27 年度からの関係比率計算式

固定資産構成比率	固定資産÷総資産	固定比率	固定資産÷純資産
有形固定資産構成比率	有形固定資産÷総資産	固定長期適合率	固定資産÷(純資産+固定負債)
特定資産構成比率	特定資産÷総資産	流動比率	流動資産÷流動負債
流動資産構成比率	流動資産÷総資産	総負債比率	総負債÷総資産
固定負債構成比率	固定負債÷(総負債+純資産)	負債比率	総負債÷純資産
流動負債構成比率	流動負債÷(総負債+純資産)	前受金保有率	現金預金÷前受金
内部留保資産比率	(運用資産-総負債)÷総資産	退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産÷退職給与引当金
運用資産余裕比率	(運用資産-外部負債)÷経常支出	基本金比率	基本金÷基本金要組入額
純資産構成比率	純資産÷(総負債+純資産)	減価償却比率	減価償却累計額(図書を除く)÷減価償却資産取得価額(図書を除く)
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額÷(総負債+純資産)	積立率	運用資産÷要積立額

運用資産→現金預金+特定資産+有価証券

要積立額→減価償却累計額+退職給与引当金+2, 3号基本金

貸借対照表関係比率の説明(日本私立学校振興・共済事業団から抜粋)

固定資産構成比率	固定資産の総資産に占める構成割合で、流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標である。固定資産は施設設備等の有形固定資産と各種引当特定資産を内容とする特定資産を中心に構成されている。学校法人が行う教育研究事業には多額の設備投資が必要となるため、一般的にはこの比率が高くなるのが学校法人の財務的な特徴である。この比率が学校法人全体の平均に比して特に高い場合、資産の固定化が進み流動性が乏しくなっていると評価することができる。しかし固定資産に占める特定資産の比率が高い学校法人においては必ずしもこの評価は適切ではないため、資産の固定化を測る比率として、有形固定資産に焦点をあてた「有形固定資産構成比率」を利用することも有効である。なお、固定資産構成比率は、流動資産構成比率と表裏をなす関係にある。
有形固定資産構成比率	有形固定資産の総資産に占める構成割合で、土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているかを評価する指標である。学校法人では教育研究事業に多額の施設設備投資を必要とするため、この比率が高くなるのが財務的な特徴であるが、学校規模に比して設備投資が過剰となる場合は財政を逼迫させる要因ともなるため、注意が必要である。
特定資産構成比率	特定資産の総資産に占める構成割合で、各種引当特定資産などの長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況を評価する指標である。一般的には、この比率が高い場合は中長期的な財政支出に対する備えが充実しており、計画的な学校法人経営に資するといえる。この比率が低い場合には主に二通りの評価が考えられる。一つは固定・流動を合わせた金融資産が少ないため特定資産の形成が困難な場合であり、資金の目的化以前に財政基盤の脆弱さ、資金の流動性の問題が懸念される。もう一つは金融資産は少なからず保有しているが特定資産を形成していない場合で、この場合は直ちに財政基盤が脆弱であるとはいえない。しかし近年では中長期的な視点にたった経営計画の策定と、経営計画の下支えとなる特定資産の重要性が高ま

	っており、また保護者をはじめとした利害関係者への説明責任の観点からも計画的な特定資産形成が望ましい。
流動資産構成比率	流動資産の総資産に占める構成割合で、固定資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標となる。流動資産は現金預金と短期有価証券のほか、未収入金などで構成されている。一般的にこの比率が高い場合、現金化が可能な資産の割合が大きく、資金流動性に富んでいると評価できる。逆に著しく低い場合は、資金流動性に欠け、資金繰りが苦しい状況であると評価できる。この比率が低い場合であっても、低金利下での有利な運用条件を求めて長期預金や長期有価証券を保有している場合や、将来的な財政基盤の安定化のために金融資産を目的化して特定資産化している場合には、必ずしも流動性に乏しいとはいえないため、特定資産や固定資産の有価証券の保有状況も確認して評価を行う必要がある。なお、流動資産構成比率は固定資産構成比率と表裏をなす関係にある。
固定負債構成比率	固定負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に長期的な債務の状況の評価するものであり、流動負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。固定負債は主に長期借入金、学校債、退職給与引当金等で構成されており、これらは長期間にわたり償還あるいは支払い義務を負う債務である。学校の施設設備の拡充や更新の際に、長期借入金を導入した方が財政計画上有利となる場合等もあり、長期借入金が多いことが直ちにネガティブな評価とはならないが、学校法人の施設整備計画や手元資金の状況に比してこの比率が過度に高い場合には、経営上の懸念材料となる点に留意が必要である。
流動負債構成比率	流動負債の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、主に短期的な債務の比重を評価するものであり、固定負債構成比率とともに負債構成のバランスと比重を評価する指標である。学校法人の財政の安定性を確保するためには、この比率が低いほうが好ましいと評価できる。しかし流動負債のうち、前受金は主として翌年度入学生の納付金はその内容であり、短期借入金とは性格を異にするものであるため、流動負債を分析する上では前受金の状況にも留意する必要がある。
内部留保資産比率	特定資産（各種引当資産）と有価証券（固定資産および流動資産）と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合である。この比率がプラスとなる場合は運用資産で総負債をすべて充当することができ、結果的に有形固定資産が自己資金で調達されていることを意味しており、プラス幅が大きいほど運用資産の蓄積度が大きいと評価できる。一方、この比率がマイナスとなる場合、運用資産より総負債が上回っていることを意味しており、財政上の余裕度が少ないことを表すこととなる。
運用資産余裕比率	「運用資産（特定資産・有価証券・現金預金の換金可能なもの）」から「外部負債（借入金・学校債・未払金等の外部に返済を迫られるもの）」を差し引いた金額が、事業活動収支計算書上の経常支出の何倍にあたるかを示す比率であり、学校法人の一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているかを表す指標である。この比率が1.0を超えている場合は、すなわち一年間の学校法人の経常的な支出を賄えるだけの資金を保有していることを示し、一般的にはこの比率が高いほど運用資産の蓄積が良好であるといえる。なお、この比率の単位は（年）である。
純資産構成比率	純資産の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合で、学校法人の資金の調達源泉を分析する上で、最も概括的で重要な指標である。この比率が高いほど財政的には安定しており、逆に50%を下回る場合は他人資金が自己資金を上回っていることを示している。
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額の「総負債および純資産の合計額」に占める構成割合である。繰越収支差額とは、過去の会計年度の事業活動収入超過額又は支出超過額の累計であり、一般的には支出超過（累積赤字）であるよりも収入超過（累積黒字）であることが理想的である。しかし、単年度の事業活動収支を分析する場

	<p>合と同様に、事業活動収支差額は各年度の基本金への組入れ状況によって左右される場合もあるため、この比率のみで分析した場合、一面的な評価となる虞がある。この比率で評価を行う場合は基本金の内訳とその構成比率と併せて検討する必要がある。</p>
固定比率	<p>固定資産の純資産に対する割合で、土地・建物・施設等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか、すなわち資金の調達源泉とその用途とを対比させる比率である。固定資産は学校法人の教育研究事業にとって必要不可欠であり、永続的にこれを維持・更新していく必要がある。固定資産に投下した資金の回収は長期間にわたるため、本来投下資金は返済する必要のない自己資金を充てることが望ましい。しかし実際に大規模設備投資を行う際は外部資金を導入する場合もあるため、この比率が100%を超えることは少なくない。このような場合、固定長期適合率も利用して判断することが有効である。なお、固定資産に占める有形固定資産と特定資産の構成比にも留意が必要である。</p>
固定長期適合率	<p>固定資産の、純資産と固定負債の合計値である長期資金に対する割合で、固定比率を補完する役割を担う比率である。固定資産の取得を行う場合、長期間活用できる安定した資金として自己資金のほか短期的に返済を迫られない長期借入金でこれを賄うべきであるという原則に対してどの程度適合しているかを示している。この比率は100%以下で低いほど理想的とされる。100%を超えた場合は、固定資産の調達源泉に短期借入金等の流動負債を導入していると解することができ、財政の安定性に欠け、長期的にみて不安があることを示している。固定比率が100%以上の法人にあっては、この固定長期適合率を併用するとともに固定資産の内容に注意して分析することが望ましい。</p>
流動比率	<p>流動負債に対する流動資産の割合である。一年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなしており、100%を切っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していると見られる。ただし、学校法人にあっては、流動負債には外部負債とは性格を異にする前受金の比重が大きいことや、流動資産には企業のように多額の「棚卸資産」がなく、ほとんど当座に必要な現金預金であること、さらに、資金運用の点から、長期有価証券へ運用替えしている場合もあり、また、将来に備えて引当特定資産等に資金を留保している場合もあるため、必ずしもこの比率が低くなると資金繰りに窮しているとは限らないので留意されたい。</p>
総負債比率	<p>固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資金の比重を評価する極めて重要な比率である。この比率は一般的に低いほど望ましく、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることを示し、さらに100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態、いわゆる債務超過であることを示す。</p>
負債比率	<p>他人資金と自己資金との割合で、他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、100%以下で低い方が望ましい。この比率は総負債比率、純資産構成比率と相互に関連しているが、これらの比率よりも顕著に差を把握することができる。</p>
前受金保有率	<p>前受金と現金預金との割合で、当該年度に収受している翌年度分の授業料や入学金等が、翌年度繰越支払資金たる現金預金の形で当該年度末に適切に保有されているかを測る比率であり、100%を超えることが一般的とされている。この比率が100%を下回っている場合、主に2つの要因が考えられる。1つには前受金として収受した資金を現金預金以外の形で保有し、短期的な運用を行っている場合であり、この場合は有価証券の状況を確認することで前もって収受している翌年度分の納付金が保有されていることを確認することとなる。もう1つは、翌年度分の納付金として収受した前受金に前年度のうちから手を付けている場合であり、この状況は資金繰りに苦慮している状態</p>

	を端的に表しているものと見ることができる。なお、入学前に前受金を収受していない学校ではこの値が高くなる場合があるため、入学前年度における授業料等の納付条件等も確認する必要がある。
退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当金と特定資産中の退職給与引当特定資産の充足関係を示す比率で、将来的な支払債務である退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているかを判断するものであり、一般的には高い方が望ましい。ただし、学校法人によって退職給与引当率に差異がある場合や、特定資産を形成せず現金預金・有価証券等の形で保有している場合もあり、この比率が低い場合は退職給与引当金の財源をどのように確保しているか、学校法人の状況を念頭に置いて評価する必要がある。
基本金比率	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合である。この比率は100%が上限であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示している。未組入額があることはすなわち借入金又は未払金をもって基本金組入対象資産を取得していることを意味するため、100%に近いことが望ましい。しかし、仮に100%である場合でも繰越事業活動収支差額において支出超過となっている場合、累積した支出超過が基本金を毀損していることとなるため、繰越事業活動収支差額の状況も併せて評価する必要がある。
減価償却比率	減価償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合である。建物・設備等の有形固定資産を中心とする減価償却資産は、耐用年数に応じて減価償却されるが、固定資産の取得価額と未償却残高との差額である償却累計額が、取得価額に対してどの程度を占めているかを測る比率である。資産の取得年次が古いほど、又は耐用年数を短期間に設定しているほどこの比率は高くなる。なお、設立から間もない学校法人では固定資産の償却が開始したばかりであるため、特に低い値となる。
積立率	学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。この比率では、長期的に必要となる資金需要の典型的なものとして、施設設備の取替更新と退職金支払に焦点をあてている。その一方で運用資産の内容は、学校法人ごとに特定資産の用途の指定状況が一様ではないことから、換金可能な金融資産、すなわち現金預金・有価証券（固定資産および流動資産）・特定資産の合計額と幅広く捉えている。そのため算定式の分子・分母に用途の異なる要素が混在することとなるが、ここでは学校法人全体の財政状況の全体的な把握を主眼に置いており、個別目的に対応した資産の保有状況を測るものではない。一般的には比率は高い方が望ましいが、例えば学校法人の将来計画において部門の規模縮小や廃止等が予定されている場合にはその分の施設設備の取替更新等が不要となるため、算定式から不要分にかかる要素を除外して試算してみる等、この算定式から得られる結果のみに捉われず各学校法人の状況に応じた試算を併用することも比率の活用の上では重要である。

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
学生生徒等納付金収入	287,879,589	263,549,558	229,460,256	216,807,474	174,305,090
手数料収入	3,967,600	3,922,300	3,242,400	2,502,400	2,822,600
寄付金収入	113,821,229	14,304,229	15,004,229	14,582,829	12,497,252
補助金収入	70,342,234	76,847,197	64,124,844	80,310,560	39,814,700
資産売却収入	156,077,659	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	3,590,290	195,600	450,600	572,200	583,900
受取利息・配当金収入	913,166	742,551	728,744	744,097	407,908
雑収入	29,954,868	5,254,288	9,467,817	34,940,020	15,826,135
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	62,651,500	52,521,000	48,196,000	36,495,500	40,927,000
その他の収入	39,630,985	21,797,430	17,178,109	8,768,541	243,003,763
資金収入調整勘定	△ 83,880,830	△ 64,903,544	△ 57,153,532	△ 95,201,143	△ 46,535,100
前年度繰越支払資金	431,590,827	564,342,465	452,241,379	289,398,160	107,167,952
収入の部合計	1,116,539,117	938,573,074	782,940,846	589,920,638	590,821,200

支出の部	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
人件費支出	316,835,600	282,585,412	275,015,745	288,050,165	247,794,781
教育研究経費支出	103,116,742	100,337,414	124,497,081	100,719,584	101,714,367
管理経費支出	82,380,625	62,306,057	72,850,377	59,133,588	62,207,712
借入金等利息支出	510,370	135,630	45,210	0	0
借入金等返済支出	21,880,000	4,110,000	4,110,000	0	0
施設関係支出	19,135,440	3,105,756	0	43,857,000	0
設備関係支出	19,605,241	5,371,796	8,135,746	4,348,586	3,549,470
資産運用支出	5,110,000	5,110,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
その他の支出	23,781,991	43,911,347	21,473,411	18,150,886	35,592,215
資金支出調整勘定	△ 40,159,357	△ 20,641,717	△ 13,584,884	△ 32,507,123	△ 19,066,832
翌年度繰越支払資金	564,342,465	452,241,379	289,398,160	107,167,952	158,029,487
支出の部合計	1,116,539,117	938,573,074	782,940,846	589,920,638	590,821,200

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	509,555,810	364,073,172	321,750,146	327,320,883	242,493,902
教育活動資金支出計	502,332,967	445,228,883	472,363,203	447,903,337	411,716,860
差引	7,222,843	△ 81,155,711	△ 150,613,057	△ 120,582,454	△ 169,222,958
調整勘定等	△ 12,607,151	△ 8,552,613	△ 17,005,174	△ 10,995,633	5,336,232
教育活動資金収支差額	△ 5,384,308	△ 89,708,324	△ 167,618,231	△ 131,578,087	△ 163,886,726
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	156,077,659	0	0	22,394,600	150,000,000

施設整備等活動資金 支出計	38,740,681	8,477,552	8,135,746	48,205,586	3,549,470
差引	117,336,978	△ 8,477,552	△ 8,135,746	△ 25,810,986	146,450,530
調整勘定等	13,903,912	△ 14,855,077	2,667,765	△ 22,263,302	21,248,137
施設整備等活動資金 収支差額	131,240,890	△ 23,332,629	△ 5,467,981	△ 48,074,288	167,698,667
小計（教育活動資金収 支差額＋施設整備等活 動資金収支差額）	125,856,582	△ 113,040,953	△ 173,086,212	△ 179,652,375	3,811,941
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収 入計	36,622,066	13,675,151	15,654,809	4,880,106	48,756,901
その他の活動資金支 出計	29,579,010	13,077,220	5,956,504	7,611,922	1,000,000
差引	7,043,056	597,931	9,698,305	△ 2,731,816	47,756,901
調整勘定等	△ 148,000	341,936	544,688	153,983	△ 707,307
その他の活動資金収 支差額	6,895,056	939,867	10,242,993	△ 2,577,833	47,049,594
支払資金の増減額（小 計＋その他の活動資金 収支差額）	132,751,638	△ 112,101,086	△ 162,843,219	△ 182,230,208	50,861,535
前年度繰越支払資金	431,590,827	564,342,465	452,241,379	289,398,160	107,167,952
翌年度繰越支払資金	564,342,465	452,241,379	289,398,160	107,167,952	158,029,487

ウ) 財務比率の経年比較

・教育活動資金収支差額比率

関係比率	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
教育活動資金収支差額比率	△1.0%	△24.7%	△52.2%	△40.4%	△67.8%

教育活動資金収支差額比率…教育活動資金収支差額÷教育活動資金収入計

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

科目		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	287,879,589	263,593,094	229,460,256	216,807,474	174,305,090
	手数料	3,967,600	3,922,300	3,242,400	2,502,400	2,822,600
	寄付金	113,821,229	14,304,229	15,004,229	13,913,229	12,497,252
	経常費等補助金	70,342,234	76,847,197	64,124,844	58,585,560	39,814,700
	付随事業収入	3,644,177	195,600	450,600	572,200	583,900
	雑収入	42,783,768	13,076,888	19,283,882	36,976,029	17,289,113
	教育活動収入計	522,438,597	371,939,308	331,566,211	329,356,892	247,312,655
	事業活動支出の部					
	人件費	316,835,600	282,585,412	275,015,745	288,050,165	247,794,781
	教育研究経費	187,478,097	185,002,766	208,297,175	185,095,468	185,800,316
	管理経費	93,428,078	73,927,371	84,888,979	69,315,640	74,041,064
	徴収不能額等	0	43,536	0	0	0

	教育活動支出計	597,741,775	541,559,085	568,201,899	542,461,273	507,636,161
	教育活動収支差額	△ 75,303,178	△ 169,619,777	△ 236,635,688	△ 213,104,381	△ 256,967,731
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	913,166	742,551	728,744	744,097	407,908
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	3,355,775
	教育活動外収入計	913,166	742,551	728,744	744,097	3,763,683
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	510,370	135,630	45,210	0	0
	その他の教育活動外支出	765,786	505,528	0	1,784,886	0
	教育活動外支出計	1,276,156	641,158	45,210	1,784,886	0
	教育活動外収支差額	△ 362,990	101,393	683,534	△ 1,040,789	3,763,683
経常収支差額		△ 75,666,168	△ 169,518,384	△ 235,952,154	△ 214,145,170	△ 260,323,506
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	5,138,539	0	0	0	0
	その他の特別収入	503,619	2,120,472	260,693	22,483,466	306,146
	特別収入計	5,642,158	2,120,472	260,693	22,483,466	306,146
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	269,466,317	226,732	89,974	21,943	219,193
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	269,466,317	226,732	89,974	21,943	219,193
	特別収支差額	△ 263,824,159	1,893,740	170,719	22,461,523	86,953
基本金組入前当年度収支差額		△ 339,490,327	△ 167,624,644	△ 235,781,435	△ 191,683,647	△ 256,472,870
基本金組入額合計		△ 0	△ 26,656,344	△ 6,210,375	△ 48,635,173	△ 3,611,525
当年度収支差額		△ 339,490,327	△ 194,280,988	△ 241,991,810	△ 240,318,820	△ 260,084,395
前年度繰越収支差額		△ 2,911,491,629	△ 2,493,809,413	△ 2,688,090,401	△ 2,930,082,211	△ 3,170,401,031
基本金取崩額		757,172,543	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△ 2,493,809,413	△ 2,688,090,401	△ 2,930,082,211	△ 3,170,401,031	△ 3,430,485,426

(参考)

事業活動収入計	528,993,921	374,802,331	332,555,648	352,584,455	251,382,484
事業活動支出計	868,484,248	542,426,975	568,337,083	544,268,102	507,855,354

イ) 財務比率の経年比較

・人件費比率、教育研究経費比率、管理経費比率、事業活動収支差額比率、学生生徒等納付金比率、経常収支差額比率

事業活動収支計算書 関係比率	医療法人以外 大学法人 全国平均	短大法人 全国平均	評	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
人件費比率	51.7%	63.0%	▼	60.6%	75.9%	82.8%	87.3%	98.8%
人件費依存率	69.4%	99.2%	▼	110.1%	107.2%	120.1%	132.7%	142.5%
教育研究経費比率	25.6%	21.9%	△	35.8%	49.6%	62.7%	56.1%	74.1%
管理経費比率	7.5%	9.1%	▼	17.8%	19.8%	25.6%	20.9%	29.5%
借入金等利息比率	0.7%	1.0%	▼	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率				△64.1%	△44.8%	△70.9%	△54.4%	△102.0%
基本金組入後収支比率				164.1%	155.7%	174.2%	178.9%	204.8%
学生生徒等納付金比	74.5%	63.5%	～	55.1%	70.8%	69.0%	65.8%	69.3%

率								
寄付金比率	2.8%	2.4%	△	21.6%	3.7%	4.5%	4.2%	5.2%
経常寄付金比率				21.8%	3.8%	4.5%	4.2%	4.8%
補助金比率	12.5%	23.8%	△	13.2%	20.5%	19.2%	22.7%	15.9%
経常補助金比率				13.4%	20.6%	19.3%	17.9%	15.9%
基本金組入率	16.0%	12.1%	△	0.0%	7.2%	1.8%	13.9%	1.6%
減価償却額比率	11.1%	9.7%	～	16.0%	17.9%	16.9%	17.6%	18.9%
経常収支差額比率				△14.5%	△45.6%	△71.1%	△64.8%	△102.4%
教育活動収支差額比率				△14.4%	△45.7%	△71.4%	△64.7%	△105.3%

医療法人以外大学法人全国平均及び短大法人全国平均は平成14年度版日本私立学校振興・共済事業団の平成13年度の値で、同様に評は「▼ 低い値が良い △ 高い値がよい ～ どちらとも言えない」を示している。

関係比率の関係比率計算式

人件費比率	人件費÷経常収入
人件費依存率	人件費÷学生生徒等納付金
教育研究経費比率	教育研究経費÷経常収入
管理経費比率	管理経費÷経常収入
借入金等利息比率	借入金等利息÷経常収入
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入
基本金組入後収支比率	事業活動支出÷(事業活動収入－基本金組入額)
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金÷経常収入
寄付金比率	寄付金÷事業活動収入
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金÷経常収入
補助金比率	補助金÷事業活動収入
経常補助金比率	教育活動収支の補助金÷経常収入
基本金組入率	基本金組入額÷事業活動収入
減価償却額比率	減価償却額÷経常支出
経常収支差額比率	経常収支差額÷経常収入
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額÷教育活動収入計

事業活動収支計算書関係比率の説明（日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

人件費比率	人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因ともなる。教職員1人当たり人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。
人件費依存率	人件費の学生生徒等納付金に占める割合を示す。この比率は人件費比率及び学生生徒等納付金比率の状況にも影響される。一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっている（比率が100%を超えない）ことが理想的であるが、学校の種類や系統・規模等により、必ずしもこの範囲に収まらない構造となっている場合もある点に留意が必要である。例えば高等学校においては学費軽減の観点から相当規模の補助金が交付されており、相対的に学生生徒納付金が低い水準に抑えられている場合は、分母に補助金を加えて「修正人件費依存率」として評価することも有用である。

教育研究経費比率	教育研究経費の経常収入に占める割合である。教育研究経費には修繕費、光熱水費、消耗品費、委託費、旅費交通費、印刷製本費等の各種支出に加え教育研究用固定資産にかかる減価償却額が含まれている。また附属病院については医療経費がある。これらの経費は教育研究活動の維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。なお、高等学校法人等では、教育研究経費と管理経費を区分していない場合もあり、この場合は両者を合算した「経費比率」として分析を行うこととなる。
管理経費比率	経常収入に対する管理経費の占める割合である。管理経費は教育研究活動以外の目的で支出される経費であり、学校法人の運営のため、ある程度の支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましい。なお、管理経費と教育研究経費の区分、両者を合計した経費の支出状況や減価償却の程度等にも留意が必要である。
借入金等利息比率	経常収入に対する借入金等利息の占める割合である。この比率は、学校法人の借入金等の額及び借入条件等によって影響を受け、貸借対照表の負債状態が事業活動収支計算書にも反映しているため、学校法人の財務を分析する上で重要な財務比率の一つである。借入金等利息は外部有利子負債がなければ発生しないものであるため、この比率は低い方が望ましいとされる。
事業活動収支差額比率	事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。このプラスの範囲内で基本金組入額が収まっていれば当年度の収支差額は収入超過となり、逆にプラス分を超えた場合は支出超過となる。この比率がマイナスになる場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができないことを示し、基本金組入前の段階で既に事業活動支出超過の状況にある。マイナスとなった要因が臨時的なものによる場合は別として、一般的にマイナス幅が大きくなるほど経営が圧迫され、将来的には資金繰りに支障をきたす可能性が否めない。
基本金組入後収支比率	事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率である。一般的には、収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが、臨時的な固定資産の取得等による基本金組入れが著しく大きい年度において一時的に急上昇する場合もある。この比率の評価に際しては、この比率が基本金組入額の影響を受けるため、基本金の組入状況およびその内容を考慮する必要がある。
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金の経常収入に占める割合である。学生生徒等納付金は、学生生徒等の増減並びに納付金の水準の高低の影響を受けるが、学校法人の事業活動収入のなかで最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることの少ない重要な自己財源であることから、この比率が安定的に推移することが望ましい。この比率の評価に際しては、同時に学生生徒等納付金の内訳や学生生徒等1人当たりの納付金額、奨学金の支出状況も確認することが重要である。
寄付金比率	寄付金の事業活動収入に占める割合である。寄付金は私立学校にとって重要な収入源であり、一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のためには好ましいことである。しかし、寄付金は予定された収入ではないため年度による増減幅が大きくなる。周年事業の寄付金募集を行っている場合、事業の終了後に寄付金収入が大きく落ち込む例が典型的である。今後の学校経営においては、学内の寄付金募集体制を充実させ、一定水準の寄付金の安定的な確保に務めることの重要性が高まっている。
経常寄付金比率	上記寄付金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
補助金比率	国又は地方公共団体の補助金の事業活動収入に占める割合である。学校法人において、補助金は一般的に学生生徒等納付金に次ぐ第二の収入源泉であり、今や必要不可欠なものである。私立学校が公教育の一翼を担う観点からも今後の補助金額の増加が大いに期待されている。しかしこの比率が高い場合、学校法人独自の自主財源が相対的に小さく、国や地方公共団体の補助金

	政策の動向に影響を受け易いこととなるため、場合によっては学校経営の柔軟性が損なわれる可能性も否定できない。
経常補助金比率	上記補助金比率につき経常的な要素に限定した比率である。
基本金組入率	事業活動収入の総額から基本金への組入れ状況を示す比率である。大規模な施設等の取得等を単年度に集中して行った場合は、一時的にこの比率が上昇することとなる。学校法人の諸活動に不可欠な資産の充実のためには、基本金への組入れが安定的に行われることが望ましい。したがってこの比率の評価に際しては、基本金の組入れ内容が単年度の固定資産の取得によるものか、第2号基本金や第3号基本金にかかる計画的な組入れによるものか等の組入れの実態を確認しておく必要がある。
減価償却額比率	減価償却額の経常支出に占める割合で、当該年度の経常支出のうち減価償却額がどの程度の水準にあるかを測る比率である。一方で、減価償却額は経費に計上されているが実際の資金支出は伴わないものであるため、別の視点では実質的には費消されずに蓄積される資金の割合を示したものと捉えることも可能である。
経常収支差額比率	経常的な収支バランスを表す比率として新設
教育活動収支差額比率	本業である教育活動の収支バランスを表す比率として新設

活動区分資金収支計算書関係比率

関係比率	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
教育活動資金収支差額比率	△4.7%	△1.0%	△24.7%	△52.2%	△40.4%

教育活動資金収支差額比率…教育活動資金収支差額÷教育活動資金収入計

活動区分資金収支計算書関係比率の説明（t日本私立学校振興・共済事業団から抜粋）

教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出しているかを測る比率である。比率はプラスであることが望ましいが、「その他活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。
--------------	---

(2) その他

①有価証券の状況

- ・種類、貸借対照表計上額、時価、差額等
該当なし

②借入金の状況

- ・借入先、期末残高、利率、返済期限等
該当なし

③学校債の状況

- ・発行年度、本年度末残高、利率、償還期限等
該当なし

④寄付金の状況

特別寄付金

- ・同窓会からの助成

寄付金額：176,000円

（図書館ノートパソコン5台への栄養計算ソフト導入費用）

・後援会からの助成
寄付金額：11,661,252円
（校舎内清掃費用、学生通学用無料バス運行費用）

一般寄付金

・卒業寄付
寄付金額：660,000円

⑤補助金の状況

国庫補助金

・令和2年度私立大学等経常費補助金
補助金額：27,727,000円
（岡山学院大学：27,727,000円）

・令和2年度授業料等減免費交付金
補助金額：12,014,700円
（岡山学院大学：6,211,300円、岡山短期大学：5,803,400円）

地方公共団体補助金

・令和2年度おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金
補助金額：7,000円
（おかたん子育てカレッジ）

・令和2年度倉敷市結核健康診断費補助金
補助金額：66,000円
（岡山学院大学：24,200円、岡山短期大学：41,800円）

監査報告書

学校法人原田学園

理事長 原田博史 殿

作成日 令和 5 年 5 月 26 日

学校法人原田学園

監事 小野 聡 

監事 三宅 恢 弘 

私は、私立学校法第37条第3項の規定に基づいて、学校法人原田学園の令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上

監査報告書

学校法人原田学園
評議員会議長 殿

作成日 令和 3 年 5 月 26 日

学校法人原田学園

監事 小野 聡



監事 三宅 恢弘



私は、私立学校法第37条第3項の規定に基づいて、学校法人原田学園の令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書）を含め、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し監査を行いました。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産又は理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上